笛吹市文化財調査報告書　第10集

山梨県笛吹市

清　水　遺　跡

携帯電話アンテナ基地局建設事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

2009

笛　吹　市　教　育　委　員　会
KDDI㈱ 東京エンジニアリングセンター
㈱ 熊　谷　組　　首　都　圏　支　店
㈶ 山　梨　文　化　財　研　究　所

序

笛吹市には、縄文時代前期末から中期末にかけて、華やかな立体装飾を持つ土器と、豊かな表情を持つ土偶に代表される文化が栄え、これまでにも花鳥山遺跡、銚子原遺跡、釈迦堂遺跡、桂野遺跡、一の沢遺跡など全国に誇るべき集落遺跡が調査、報告されてきました。また、釈迦堂遺跡、一の沢遺跡の出土品は、国の重要文化財に指定され、博物館において広く公開されております。

さて、市内には、これら縄文時代の拠点集落というべき遺跡のほかにも、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良平安時代を通して数多くの遺跡があり、これら遺跡群と数多くの文化財を活用し、「甲斐国千年の都　笛吹市」として、広く県内外に情報発信しております。

今回、報告させていただきます清水遺跡は、先に紹介した市内の縄文時代集落遺跡のような背後に山を背負う立地とは異なり、京戸川により形成された段丘肩に展開しています。周辺における過去の発掘調査の事例でも、古墳時代を中心とした古代の集落遺跡が中心に確認されていました。その中で、縄文時代を中心とした住居跡群が高密度で確認されたことは、今後の笛吹市内における縄文時代遺跡の分布と展開を探るうえで、大きな一助となると思われます。

最後に、発掘調査にご理解、ご協力いただきましたＫＤＤＩ株式会社、株式会社富士通ビジネスシステム、地権者各位をはじめとする関係各位、ならびに調査を担当いただいた財団法人山梨文化財研究所に感謝申し上げますとともに、本調査報告書が広く活用されますことをご期待申し上げます。

笛吹市教育委員会
教育長　山田武人

例　言

1　本書は山梨県笛吹市一宮町本都塚字清水186に所在する清水遺跡の発掘調査報告書である。

2　本調査はKDDI株式会社の携帯電話アンテナ基地局建設事業に伴い、笛吹市教育委員会より委託を受けて（財）山梨文化財研究所が実施した。

3　本書の原稿執筆・編集は、望月秀和が行った。

4　発掘調査における基準点測量、ポール写真撮影、全体図作成業務を㈱テクノプランニングに委託した。

5　本書に関わる出土品、記録類は笛吹市教育委員会で保管する予定である。

6　発掘調査から報告書作成に至るまで、以下の諸氏、諸機関からご教示、ご配慮を賜った。記して感謝申し上げたい。（順不同、敬称略）。

秋山圭子　河西　学　櫛原功一　保坂康夫
網倉邦生　野崎 進　鷹野義朗

凡　例

1　本書におけるX・Y数値は、平面直角座標第８系（原点：北緯36度00分00秒）、東経（138度30分00秒）に基づく座標数値である（世界測地系数値）。各遺構平面図中の北を示す方位はすべて座標北である。

2　遺構および遺物の縮尺は次のとおりである。

遺　構：１／60　１／30　全体図：任　意
土　器：１／３、１／４　土製品：１／２
石　器：１／４（石鏃ほか小型品は原寸大）

3　遺構図版中の遺物点間をつなぐ線は接合した２点の接合関係を示す。本報告で出土地点を示したドットの番号は、図化番号と同一番号を付している。

4　土器断面図中の破線は接合帯を示す。

5　土層説明における土色表示は農林水産省水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』（2006年度版）を使用した。

6　遺構図版中の遺物番号は写真図版番号、遺物観察表番号と一致している。

7　本書第１図は国土地理院発行1/200,000『甲府』、第２図は一宮町都市計画基本図５　1：2,500国土基本図を使用した。

8　本文の註・参考文献については各節（章）ごと文末にまとめた。なお、本書で引用した用語は、引用元のまま掲載した。

目　次

本文目次

例言
本文目次
図版目次
表目次
写真図版目次
第１章　調査の経緯 …… 1
第２章　遺跡の位置と歴史的環境 …… 2
　第１節　遺跡の位置と地理的環境 …… 2
　第２節　歴史的環境 …… 2
第３章　調査の方法と成果 …… 3
　第１節　調査の方法 …… 3
　第２節　層序について …… 5
第４章　発見した遺構と遺物 …… 5
　第１節　竪穴住居跡 …… 5
　第２節　ピット …… 6
　第３節　土坑 …… 10
第５章　総括 …… 28
　第１節　遺物について …… 28
　第２節　遺構の年代について …… 30
　おわりに …… 30
報告書抄録・奥付

図版目次

第１図　遺跡の位置 …… 1
第２図　周辺図 …… 2
第３図　調査区位置およびグリッド配置 …… 3
第４図　調査区全図 …… 4
第５図　基本層序 …… 5
第６図　遺構全体図、１号住　炉 …… 7
第７図　遺物分布全図 …… 8
第８図　１・２号住　出土遺物 …… 9
第９図　３・４号住、ピット　出土遺物 …… 10
第10図　土坑 …… 11
第11図　礫・一括遺物出土状況および石器出土位置 …… 12
第12図　石製品（１）…… 13
第13図　石製品（２）…… 14
第14図　遺物（１）…… 18
第15図　遺物（２）…… 19
第16図　遺物（３）…… 20
第17図　遺物（４）…… 21
第18図　遺物（５）…… 22
第19図　遺物（６）…… 23
第20図　遺物（７）…… 24
第21図　遺物（８）…… 25
第22図　遺物（９）…… 26
第23図　土製品（１）…… 27
第24図　土製品（２）、古墳時代遺物 …… 28
第25図　時期・文様構成別土器出土状況 …… 29

表目次

表１　ピット一覧 …… 6
表２　石器観察表 …… 12
表３　土器観察表 …… 15
表４　土製品観察表 …… 17

写真図版目次

図版１　遺構（１）
図版２　遺構（２）
図版３　遺物（１）
図版４　遺物（２）
図版５　遺物（３）
図版６　遺物（４）
図版７　遺物（５）

第１章　調査の経緯

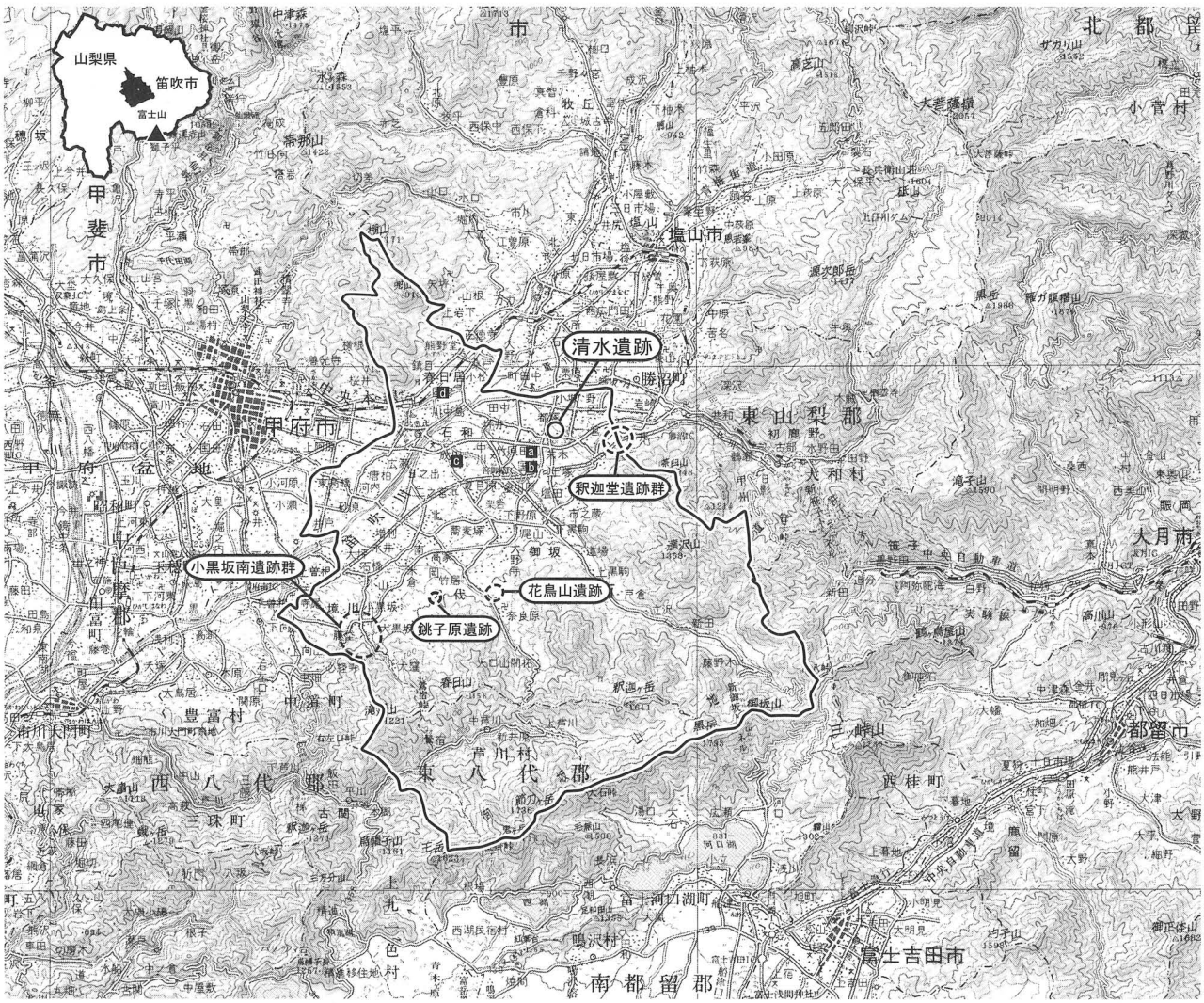
本調査は、山梨県笛吹市一宮町本都塚字清水地内におけるKDDI株式会社の携帯電話アンテナ基地局の建設に伴って実施した。平成20年５月20日、事業主体者であるKDDI株式会社東京エンジニアリング（以下、KDDI）により、当該地の埋蔵文化財の有無についての照会が行われ、建設対象地が周知の埋蔵文化財包蔵地である「清水遺跡」内に位置することが判明した。

平成20年６月24・25日に市教育委員会が試掘調査を実施し、現状面より約70cmの深さで縄文土器片・黒曜石・土師器片の出土が確認された。試掘調査の結果として、アンテナ建設部については、現状より約５．６ｍの深さまでの掘削されるため、遺跡の現状を保護する措置がとれないことから、開発実施には本格調査による記録保存が必要と判断された。KDDIの開発実施の決定に伴い、本格調査への移行が確実となり、笛吹市教育委員会・財団法人山梨文化財研究所との三者間で調査及び調査終了後の整理作業・報告書作成業務委託に関する協定が締結された。

本格調査は平成20年８月18日から平成20年９月４日、財団法人山梨文化財研究所が実施し、縄文時代前期・中期を主とした住居跡４軒、土坑４基、ピット65基を確認し、縄文土器・土師器・土製品・石器などプラスチック箱10箱分の遺物を検出した。整理作業・報告書作成作業業務は、発掘終了後の平成20・21年度に実施し、平成21年３月に本書刊行に至った。

〈調査体制〉

笛吹市教育長　山田武人
笛吹市教育委員会文化財課 課長　中山孝仁
笛吹市教育委員会文化財課 担当　望月和幸
調査機関　財団法人 山梨文化財研究所
山梨文化財研究所 所長　萩原三雄
発掘調査担当　入江 俊行（山梨文化財研究所調査員）
整理作業担当　望月 秀和（山梨文化財研究所調査員）
調査作業員　岩崎 誠至　早川 栄藏　深澤 友子
由井 悦雄
整理作業員　小沢恵津子　小林 祐子　斉藤 ひろみ
須田 泰美　田中 真紀美　古郡 明



■ a 甲斐国分僧寺跡　b 甲斐国分尼寺跡　c 国衙推定地　d 国府推定地　　(S=1/500,000　国土地理院発行20万分の１を加工・加筆)

第１図　遺跡の位置

第２章　遺跡の位置と歴史的環境

第１節　遺跡の位置と地理的環境

清水遺跡は、甲府盆地東端部に位置する、笛吹市一宮町本都塚字清水に所在する。一帯は盆地縁辺の山地帯から流れる複数の河川によって複雑に形成された、複合扇状地帯の扇央～扇端部にあたる。調査区は一宮中学校グラウンドの北約 60 m、御手洗川の左岸に位置する。御手洗川のはじまりにあたる京戸川・大石川の現合流地点からは約 800 m、御手洗川と田垂川の合流地点からは約 280m あり、標高は約 335m を測る。河川流域であることに加え、周辺調査では複数条の河川堆積層が確認されており、洪水や流路変移によって複雑に形成されてきた土地であることが窺える。現在は河岸段丘状の地形を呈しており、御手洗川流路までの標高差は約５ｍを測る。調査前は果樹栽培を主とした畑地であり、北傾斜する御手洗川河岸面を盛土または切土によって平坦化されていた。

第２節　歴史的環境

笛吹市は、釈迦堂遺跡群や甲斐国分寺跡・国分尼寺跡をはじめ、原始から中世まで 741 の遺跡があり、遺構・遺物が濃密に分布する県内有数の埋蔵文化財包蔵地として周知されている。釈迦堂遺跡群は、笛吹市（旧東八代郡一宮町）と甲州市（旧東八代郡勝沼町）にまたがる京戸川扇状地上に位置する。中央自動車道建設に伴い実施された調査では、塚越北Ａ・塚越北Ｂ・釈迦堂・三口神平・野呂原地区で縄文早期から平安期にかけての遺構・遺物が発見され、1116 個の土偶が出土したことでも注目を集めた。調査区周辺における縄文時代の集落分布については、同遺跡群が扇状地の扇頂部に近い山裾部にあたる一宮町東端部から勝沼町にかけて広がるほか、扇状地扇央部にあたる甲斐国分二寺周辺や北堀遺跡、晩期には豆塚遺跡において確認されている。国分寺跡周辺については遺構確認はされていないものの、縄文時代中期の土器や土偶が多数出土しており、古代の遺構下もしくは同面に大規模な集落が存在する可能性も考えられる。

縄文時代前期の集落遺構例をあげると、市内では釈迦堂遺跡群、御坂町・花鳥山遺跡、境川町・小黒坂南遺跡群が知られている。釈迦堂遺跡群では、下も吉井式期併行の釈迦堂Ｚ２式～諸磯ｂ式期までの竪穴住居 30 軒が検出されており、諸磯塚越北Ａ（Ｓ－Ⅰ）地区で黒浜式期 11 軒、諸磯ａ式期３軒、諸磯ｂ式期５軒が検出されている。花鳥山遺跡では諸磯ｂ～ｃ式期に位置づけられる住居址 24 軒、土壙 33 基と遺物包含層が確認されている。寺平・亀の子Ａ・机・砂原山の４遺跡から構成される小黒坂南遺跡群の調査報告では、寺平遺跡で諸磯ｂ期

〈周辺調査区一覧〉

鞍掛遺跡
集落跡／弥生・古墳・奈良・平安
- ａ スポーツ公園地区（鞍掛・清水遺跡）
- ｂ 中学校体育館地区
- ｃ 文化館地区
- ｄ 中学校東線地区
- ｅ 中学校プール地区
- ｆ 甲府信金地区
- ｇ YLO 前地区
- ｈ ガソリンスタンド地区
- Ｉ 弦間医院地区

今宮遺跡
集落跡／弥生・古墳・奈良・平安
- ｊ 県道市之蔵山梨線地区

車居遺跡
集落跡／弥生・古墳・奈良・平安
- ｋ１次調査区
- Ｌ２次調査区

伊勢田遺跡
散布地／弥生・古墳・奈良・平安

第２図　周辺図

４軒、十三菩提期１軒の５軒住居址と行する土坑 11 基、集石２基が検出されている。近年では八代町銚子原遺跡の調査例があり、黒浜式併行とされる釈迦堂 Z3 式期４軒、諸磯ａ式期２軒、諸磯ｂ式期２軒、諸磯ｃ式期２軒、十三菩提式期４軒が検出されている。また、山梨県内初の大型住居跡が検出されており、ピット配列から２度の立て替えにより徐々に大型化し、３基の埋甕炉から十三菩提式の最週末～御領ヶ台Ⅰ式期までの変遷を報告している。その他、県内では北杜市（旧北巨摩郡大泉村）天神遺跡で諸磯ｂ式期 47 軒、諸磯ｃ式期７軒が検出されている。左記にあげた市域内に立地する遺跡は、いずれも曽根丘陵上の標高 400 ～ 420 ｍに位置しており、本調査地点とはおよそ 50 ｍほど標高差がある。扇状地扇端部に近く、河川流域に立地する本地点の調査により、集落変遷を検討する上でも希少な資料を得ることができたといえよう。周辺の調査状況は第２図に示したとおりである。このうち、御手洗川沿いで実施した今宮・車居遺跡（第２図Ｊ・Ｋ・Ｌ）の発掘調査では、弥生時代～奈良平安時代までの遺構遺物とともに、黒曜石製の石鏃１点と、溝（SD3）から諸磯期の縄文施文した土器片２点が報告されている。なお、隣接する鞍掛遺跡の発掘調査では、200 軒を超える集落遺構が発見されており、古墳時代～平安時代にかけて濃密な遺構分布が明らかとなっている。本調査では、縄文中期包含層の上層から古代の遺物が出土していることから、周辺でも同様に縄文時代の遺構が埋没している可能性があり、今後の調査においては十分検討していく必要があると考えられる。

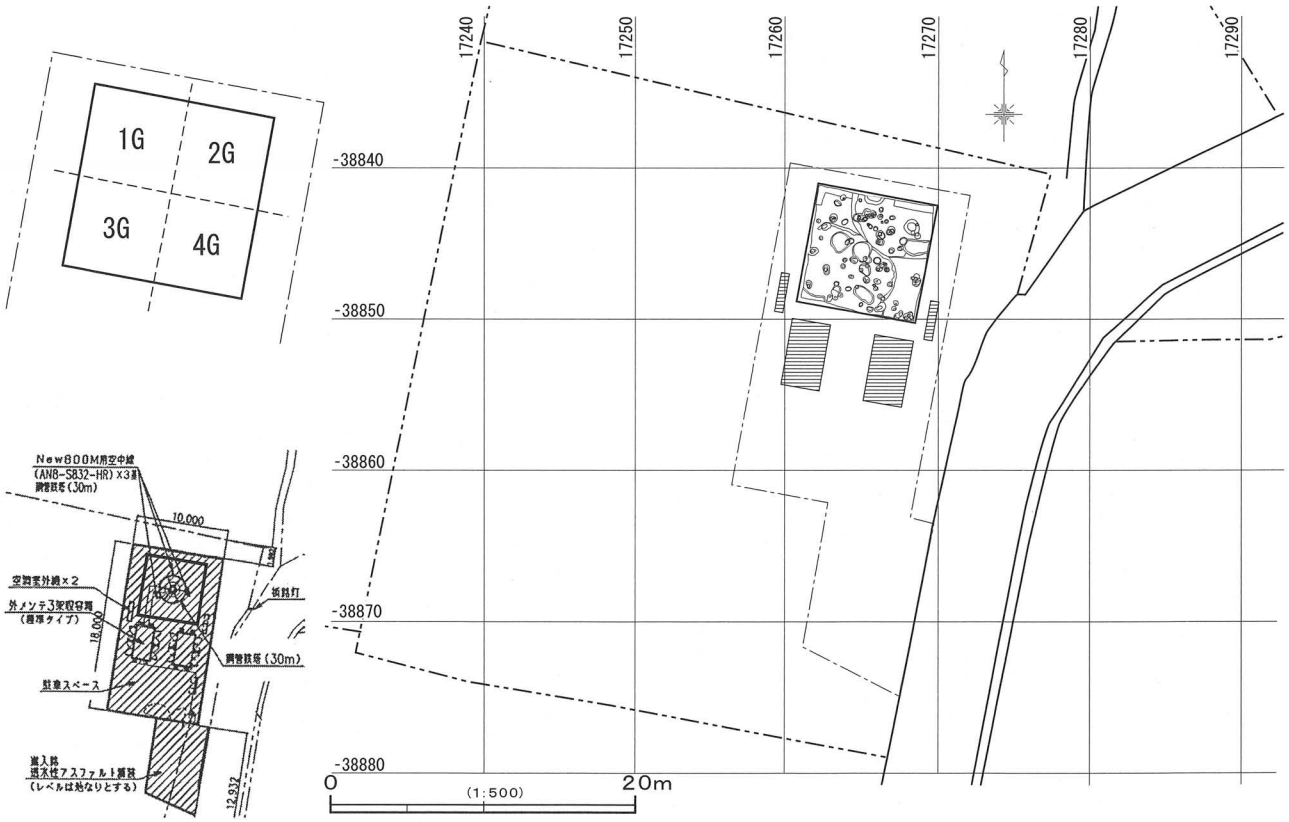
引用文献

佐々木藤雄 1986「小黒坂南遺跡群」境川村埋蔵文化財調査報告書第３輯　境川教育委員会
小野正文 1986「釈迦堂Ⅰ」山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第17集　山梨県教育委員会
小野正文 1987「釈迦堂Ⅱ」山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第21集　山梨県教育委員会
長沢宏昌 1987「釈迦堂Ⅲ」山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第22集　山梨県教育委員会
長沢宏昌 1989「花鳥山遺跡 水呑場北遺跡」山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 45 集　山梨県教育委員会
新津健・米田明訓 1994「天神遺跡」山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 97 集　山梨県教育委員会
山梨県 1989「山梨県史」資料編１　原始・古代１　考古（遺跡）山梨県史編さん委員会
山梨県 1999「山梨県史」資料編２　原始・古代２　考古（遺構・遺物）山梨県史編さん委員会
伊藤修二 2006「銚子原遺跡」笛吹市文化財調査報告書第４集　笛吹市教育委員会
野崎進・望月秀和 2007「今宮遺跡・車居遺跡」笛吹市文化財調査報告書第５集　笛吹市教育委員会

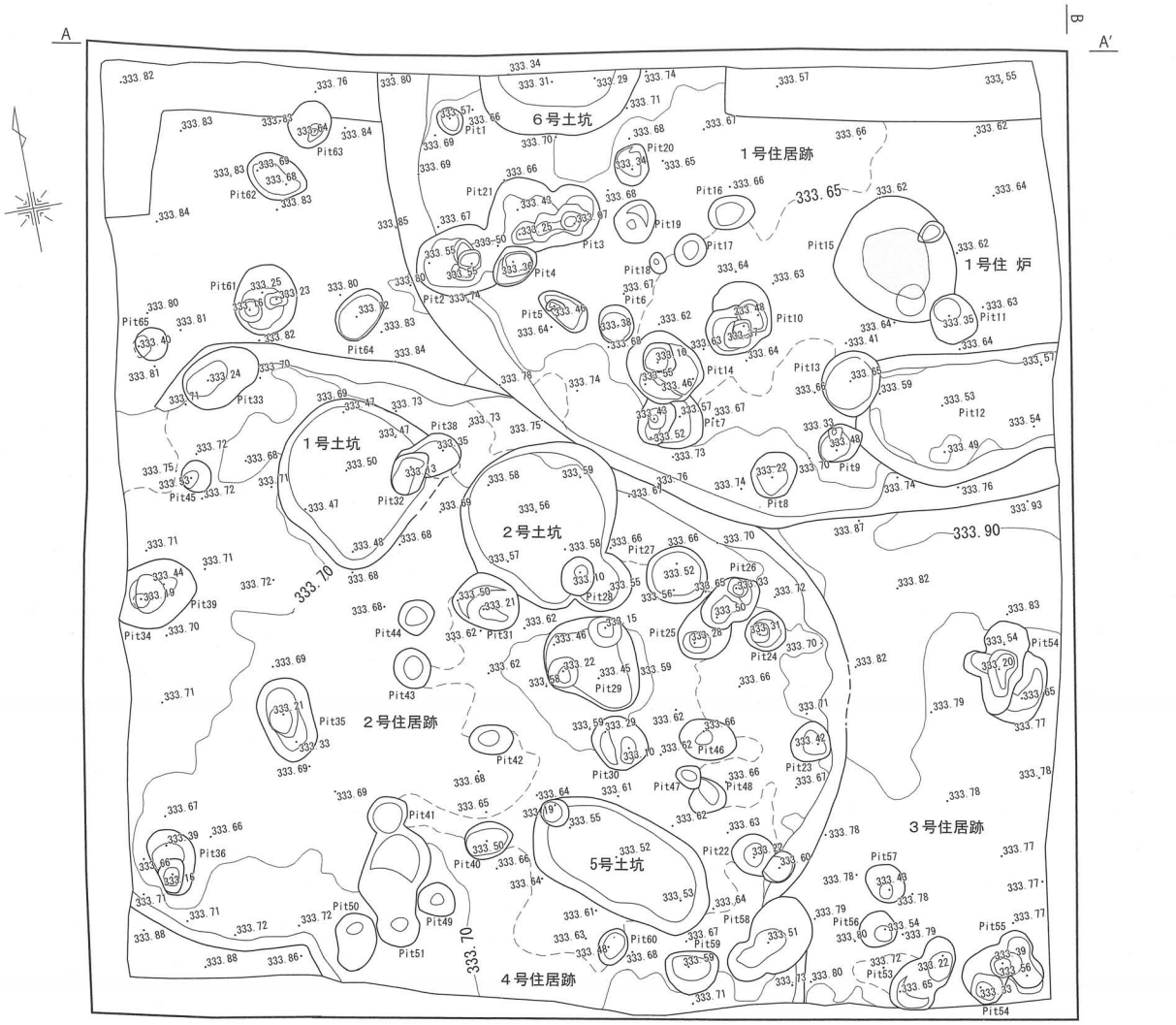
第３章　調査の方法と成果

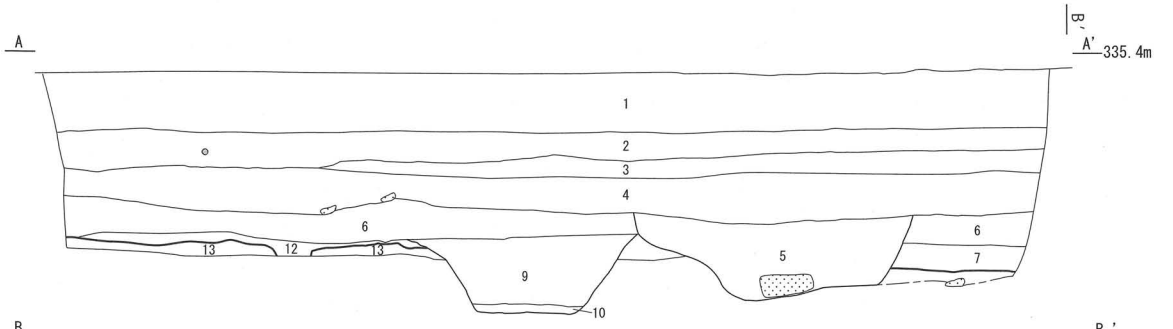
第１節　調査の方法

発掘調査は、重機（0.15）で表土の掘削を行った後、人力による遺構検出を行った。遺構検出については、調査当初、試掘成果から地表下 70cm の深さで遺構確認を試みた。しかし極めて不明瞭な状態であったことから、調査区内にサブトレを設定し、再度遺構と地山の確認を行ってから進めた。遺構確認については、地表下約 140 cmで確認した地山と判断し、同層の上層まで包含層を掘



第３図　調査区位置およびグリッド配置





1 暗褐色土（10YR3/3）　表土。しまり、粘性有。炭化物を少量含む。
2 暗褐色土（10YR3/4）　表土。しまり、粘性有。炭化物を少量含む。全体に赤色味有。水田床土か。
3 黒褐色土（10YR2/2）　しまり、粘性有。焼土、炭化物を少量含む。土師器小片有。古墳時代包含層。白色・黄色砂粒含む。
4 黒色土（10YR2/1）　しまりやや強、粘性強。縄文土器片、石器を含む。縄文中期の包含層。径 10 ～ 100cm 大の円礫を含む。白色砂粒少含。
5 黒褐色土（10YR2/2）　しまり、粘性強。円礫多含。焼土、炭化物、白色砂粒、縄文土器片を含む。土坑上に落ち込む。遺構覆土。
6 黒褐色土（10YR2/2）　しまり、粘性強。縄文土器片、石器を含む。縄文中期の包含層。径 10 ～ 50cm 大の円礫を含む。
7 黒褐色土（10YR2/2）　しまりあり、粘性強。焼土、炭化物、白色砂粒、少礫を含む。1 号住覆土。
8 黒褐色粘質土（10YR2/3）　しまりあり、粘性強。地山土が少量混。1 号住ピットか。
9 黒褐色粘質土（10YR2/3）　しまり強、粘性有。焼土、炭化物、白色砂粒を少量含む。土坑覆土。
10 暗褐色土（10YR3/3）　しまり、粘性有。砂質。土坑覆土。
11 黒褐色粘質土（10YR2/3）　しまり、粘性有。土器片、礫を少量含む。白色砂粒含む。3 号住覆土。
12 暗褐色土（10YR3/3）　しまりやや有、粘性有。砂質。地山と黒色土の漸移層。
13 暗褐色土（10YR3/4）　しまり、粘性有。砂質。地山層。
14 黒褐色粘質土（10YR2/3）　しまり、粘性有。砂質。1 号住覆土。

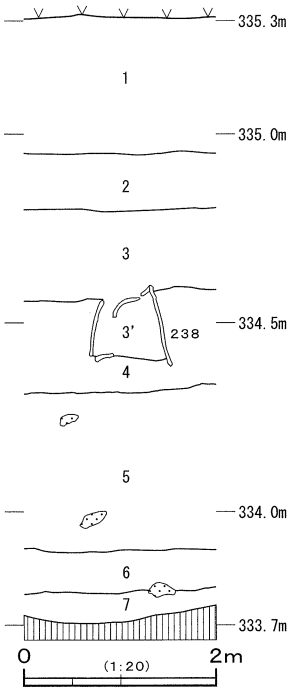
0　(1:60)　2m

第４図　調査区全図

り下げ、遺構の範囲を確認した。出土遺物については、遺構の年代や性格を判断する上で重要と判断したものに限り、トータルステーションによる原位置を記録した。それ以外の遺物は層位、遺構、ほぼ正方形の調査区を4分割したグリッドごとに一括して取り上げた。なお、グリッドは北西・北東・南西・南東の4分割し、1～4グリッドとした。狭小な調査区のため、ほぼ全面が遺構プラン内にあたり、さらに遺構の識別が非常に困難であったことから、遺構番号は調査順に付し、遺構観察または整理段階での検討の結果、遺構と看做し得ないものは欠番とした。

第2節　層序について

先述のとおり、改めて行った層序確認により、調査区北壁際の地表下140cmほどの深さで遺物を伴わない黄色味を帯びた暗褐色砂質土を確認した。同層を本調査区の地山と判断し、遺構確認を進めた。本調査区の層序状況としては、まず果樹畑の表土層下に鉄分を含む堆積層がみられ、かつて水田として利用されていた可能性が窺えた。遺物は耕作の影響もあって上層から混在していた。調査区東壁では地表面から約80cmの深さで、8C前半頃所産の甑（238）が倒置した状態で出土した。人為的な掘り込みは見られず、また同時期の遺構は確認できなかったが、調査区からは土師器坏（236）高坏（237）などが出土した。同じく遺構は検出できなかったが、縄文前期及び中期の遺構確認面上層には曽利式を主体とした土器片、黒曜石を包含する層の堆積がみられた。なお、層序図として第4図および第5図を掲載したが、基本層序としては縄文期の包含層の上層に古代の遺物を含む層をの関係性を示すため、甑出土状況の断面図を使用した。



1 灰黄褐色土（10YR4/2）
表土、埋め土。
2 にぶい黄褐色土（10YR4/3）
表土、埋め土。ややサビ分（褐色粒）有。
水田層か。
3 黒褐色土（10YR3/2）
白色砂粒やや多。しまり、粘性強。
3' 土器内の土。3層（あるいは5層）に類似。
炭化物、焼土粒含。
4 黒褐色土（10YR3/2）
白色砂粒少。焼土粒有。しまり、粘性強。
5 黒褐色粘質土（10YR3/2）
白色粒、焼土粒、炭化粒、土器片有。
炭化物（径0.5cm）あり。少礫やや多。
曽利式期遺物包含層。
6 黒褐色粘質土（10YR3/2）
遺構（住居跡）覆土。土器片有。
7 暗褐色土（10YR3/4）
遺構（住居跡）覆土下層。ローム粒有。
地山層：黄色味を帯びた暗褐砂質色土。

第5図　基本層序

第4章　発見した遺構・遺物

本調査では、縄文時代前期の竪穴住居跡4軒、縄文時代中期の土坑4基、ピット65基を検出した。出土遺物については、遺構及び包含層より縄文土器・土師器・土製品・石器などプラスチック箱10箱分が出土し、土器類が約132kg、石器類（石材片等含む）が約30kg、総量約162kgを取り上げた。調査面積が狭小で遺構の重複紺が著しく、出土した土器の大半が小片であったことからも、調査時の遺構と遺物の共伴関係の判断困難であった。本書では調査時に判断した遺構ごとの位置的なまとまりを第8・9図に1/6・1/8縮尺でまとめ、遺物実測図としては土器編年・文様構成を基に1/3縮尺で第掲載して表3の土器観察表でまとめた。本章では遺構についての事実記載を行うが、遺構年代については第5章の総括で述べることにしたい。

第1節　竪穴住居跡

1号住居跡

調査区北東隅に位置する。1号住は南に隣接する2号住居跡、3号住の一部を壊して構築されている。住居の北側と東側部分は調査区外に延びているため規模は不明で、平面形態は楕円形を呈すものと推定した。遺構確認面から床面までの深さは30～40cmを測り、壁は緩やかに立ち上がる。炉は地床炉で小ピットが伴っていた。柱穴は明確ではなく、重複するピットはPit1～21であった。北側では黄色味を帯びた暗褐色砂質土の地山はみられず、覆土下は礫層であった。

2号住居跡

1号住の南側に位置し、東側で3号住、南側で4号住に重複し、北側の一部は1号住に壊されていた。平面形態は長軸約6.5m、短軸約4.8mの楕円形を呈す。遺構確認面から床面までの深さは、約20cmを測り、壁はやや急に立ち上がっていた。床面は概ね平坦で、中央部分がわずかに低くなっていたが、炉は検出できなかった。

3号住居跡

調査区南東隅に位置し、北側で1号住、西側を2号住または4号住と重複する。平面形態・規模は不明で、東側および南側は調査区外に延びると推定される。炉跡は確認できなかった。調査区壁面の観察から、1・2号住居跡の確認面と同じ面から掘り込まれていること、底面が平坦で住居床面と看做されること、ピットや覆土中から一定量の土器片が含まれたことから、今回の調査では竪穴住居跡と位置付けた。但し、明確な時期の推定までには至らず、また今後の周辺調査の成果によっては、別

種の遺構に置き換えられる可能性もある。

４号住居跡

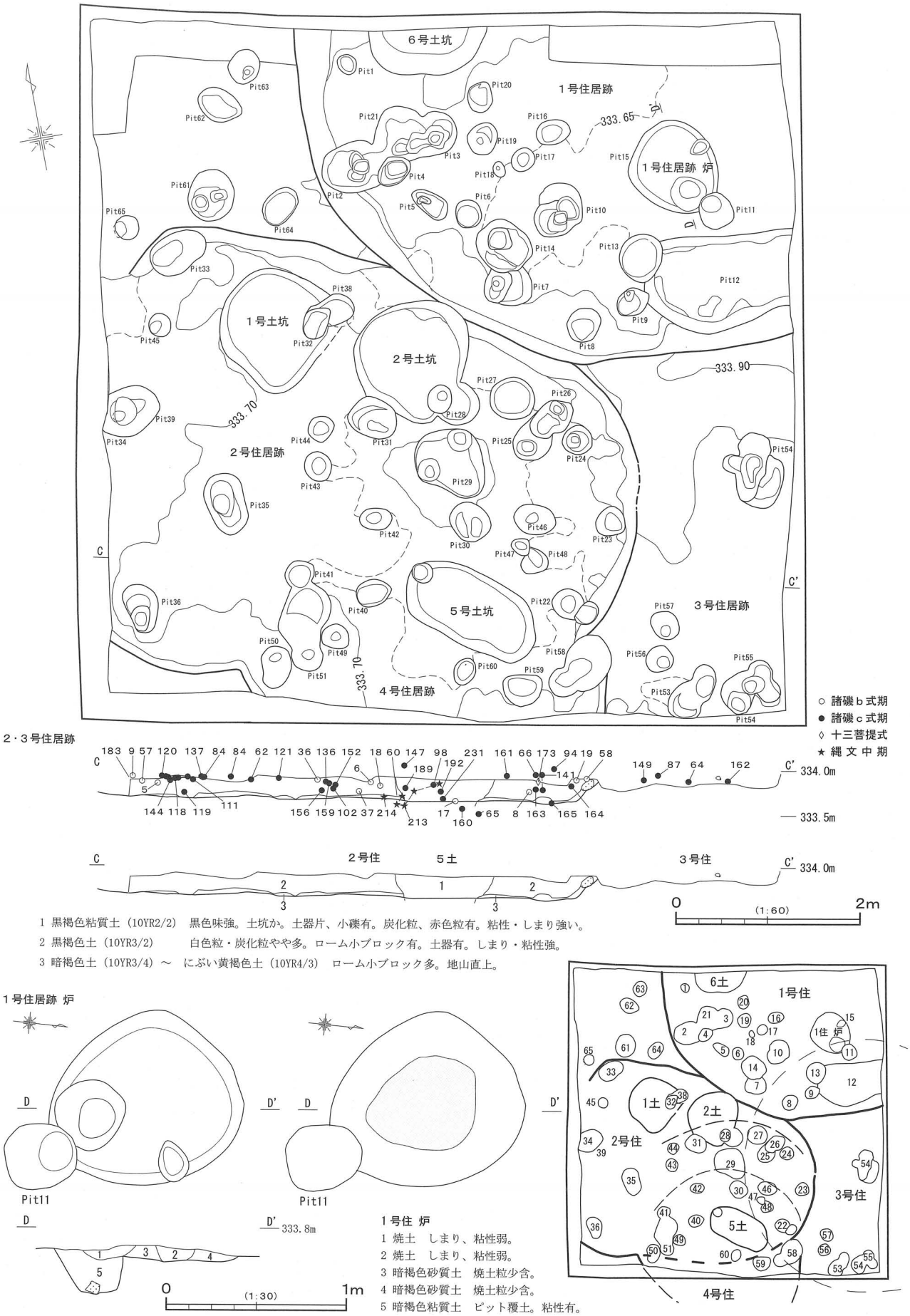
調査区南端に位置し、北側を２号住居に壊されている。南側は調査区外に延び、平面形態、規模は不明である。わずかではあるが、西側と東側に壁面の立ち上がりが確認され、底面も平坦であったことから、住居跡と判断した。遺存した壁部と遺物分布状況から、遺構範囲を想定（第６図右下）して柱穴配置の推定を試みたが、建て替え・拡張の可能性も窺え、判然とはしなかった。

第２節　ピット

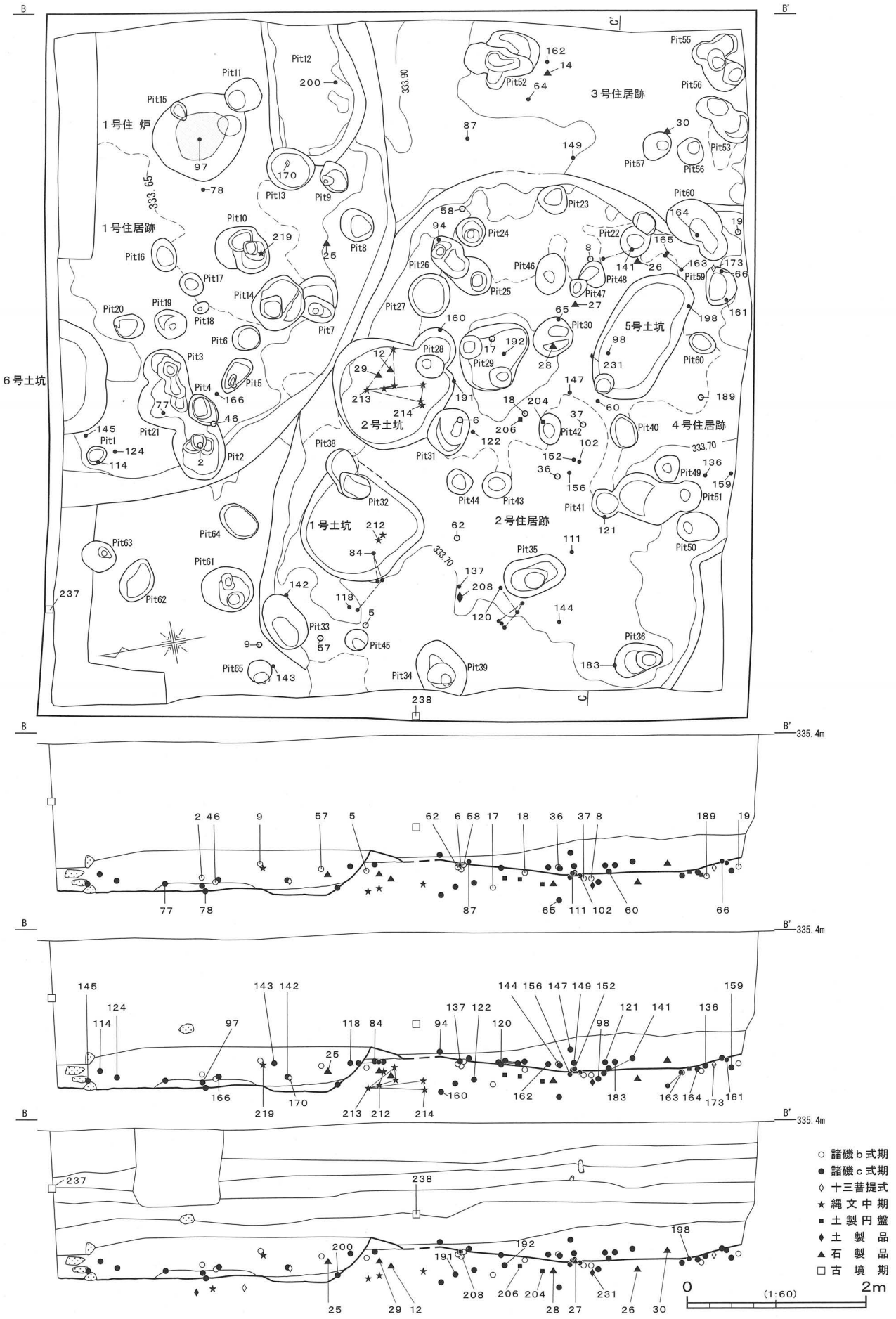
ピットは65基を検出した。調査区北西隅の５基を除き、いずれも竪穴住居の推定範囲内に位置する。平面形態は円形を呈するものが大半を占め、楕円形のものは少ない。確認面からの深さはまちまちであるが、50cmほどの深いものも存在した。なお、調査区東端のPit12は、規模が大きく、33・200が出土しているものの、性格は不明で、調査時に付した名称のまま報告している。他、表１にまとめておく。

表１　ピット一覧

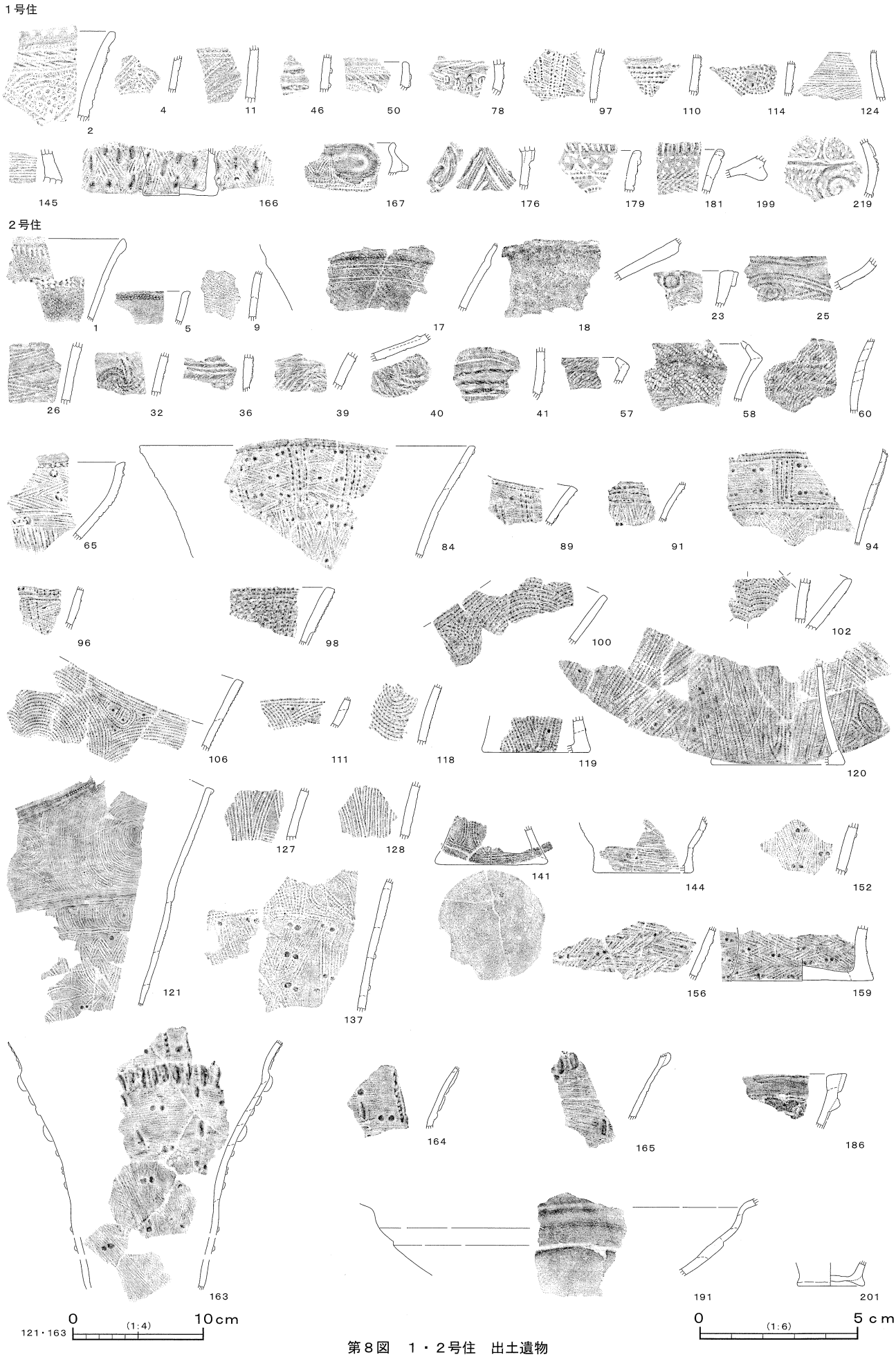
Pit名	長径(cm)	短径(cm)	底標高値(m)	出土遺物(土器)	遺物時期	出土遺物(石器類)	旧名	備考
Pit1	22	19	333.570	－	－	黒曜石片	1号住 Pit1	
Pit2	54	－	333.367	図化なし	諸磯b?	黒曜石片	1号住 Pit2	
Pit3	48	－	333.075	図化なし	?	黒曜石片	1号住 Pit3	
Pit4	40	30	333.228	図化なし	諸磯c?	黒曜石片・多	1号住 Pit4	
Pit5	45	28	333.394	図化なし	諸磯c?		1号住 Pit5	
Pit6	30	28	333.387	図化なし	諸磯c	黒曜石片	1号住 Pit6	
Pit7	53	－	333.515	図化なし	諸磯c	黒曜石片	1号住 Pit7	
Pit8	40	34	333.162	－	－		1号住 Pit8	
Pit9	39	31	333.455	－	－		1号住 Pit9	
Pit10	64	55	333.315	図化なし	諸磯c?	黒曜石片	1号住 Pit10	
Pit11	40	37	333.325	図化なし	諸磯c		1号住 Pit11	
Pit12	－	129	333.457	33・200	諸磯b	黒曜石片	1号住 Pit12	規模・形態は明確ではない
Pit13	16	11	333.390	170	十三菩提	黒曜石片	1号住 Pit13	
Pit14	59	55	333.076	図化なし	諸磯b?	黒曜石片	1号住 Pit14	
Pit15	22	17	333.377	－	－		1号住 Pit15	
Pit16	40	28	333.420	－	－		1号住 Pit16	
Pit17	29	24	333.370	－	－		1号住 Pit17	
Pit18	18	13	333.477	－	－		1号住 Pit18	
Pit19	38	33	333.400	－	－		1号住 Pit19	
Pit20	36	28	333.333	－	－		1号住 Pit20	
Pit21	64	－	333.234	77	諸磯c		1号住 Pit21	
Pit22	52	33	333.230	図化なし	?		2号住 Pit1	
Pit23	34	32	333.420	図化なし	諸磯b	黒曜石片	2号住 Pit2	
Pit24	34	32	333.365	－	－		2号住 Pit3	
Pit25	39	－	333.261	図化なし	?		2号住 Pit4	
Pit26	54	36	333.314	－	－		2号住 Pit5	
Pit27	51	49	333.545	－	－		2号住 Pit6	
Pit28	32	27	333.089	160	諸磯b	黒曜石片	2号住 Pit7	
Pit29	88	76	333.427	17・63・192	諸磯b		2号住 Pit8	
Pit30	46	40	333.290	図化なし	?		2号住 Pit9	
Pit31	52	44	333.215	6	諸磯b	黒曜石小塊	2号住 Pit10	
Pit32	36	26	－	図化なし	?		2号住 Pit11	
Pit33	66	44	333.213	－	－		2号住 Pit12	
Pit34	51	－	333.348	図化なし	諸磯c		2号住 Pit13	
Pit35	70	43	333.150	図化なし	?	黒曜石小塊	2号住 Pit14	
Pit36	57	36	333.347	183	諸磯c		2号住 Pit15	
Pit37	25	23	333.250	図化なし	諸磯b?		2号住 Pit16	
Pit38	－	33	333.350	－	－	黒曜石小塊	2号住 Pit19	
Pit39	－	56	333.190	－	－		2号住 Pit20	
Pit40	39	30	333.502	図化なし	諸磯b?	黒曜石片	2号住 Pit21	
Pit41	－	33	－	図化なし	諸磯b・c		2号住 Pit22	
Pit42	36	24	－	図化なし	諸磯c	黒曜石小塊	2号住 Pit23	
Pit43	34	30	－	－	－		2号住 Pit24	
Pit44	30	29	－	－	－		2号住 Pit25	
Pit45	27	25	333.536	－	－		2号住 Pit26	
Pit46	47	34	333.660	図化なし	諸磯b		2号住 Pit27	
Pit47	20	18	－	図化なし	諸磯c		2号住 Pit28	
Pit48	30	－	－	8	諸磯b		2号住 Pit29	
Pit49	30	28	－	－	－		2号住 Pit30	
Pit50	49	33	－	図化なし	?		2号住 Pit31	
Pit51	99	51	－	－	－		2号住 Pit32	
Pit52	84	67	333.215	16	諸磯b	黒曜石片	3号住 Pit1	
Pit53	67	36	333.220	－	－		3号住 Pit2	
Pit54	28	25	333.502	140	諸磯c?	黒曜石片	3号住 Pit3	
Pit55	49	－	333.560	－	－		3号住 Pit4	
Pit56	31	29	333.540	－	－		3号住 Pit5	
Pit57	35	30	333.347	－	－		3号住 Pit6	
Pit58	81	51	333.382	図化なし	?	黒曜石小塊	4号住 Pit1	
Pit59	43	36	333.430	66・161・173	諸磯b		4号住 Pit2	
Pit60	32	23	333.502	138・164	諸磯c		4号住 Pit3	
Pit61	58	50	333.204	－	－		遺構外 Pit1	
Pit62	51	37	333.670	－	－		遺構外 Pit2	
Pit63	40	34	333.655	－	－		遺構外 Pit3	
Pit64	46	33	333.697	－	－		遺構外 Pit4	
Pit65	27	25	333.557	－	－		遺構外 Pit5	



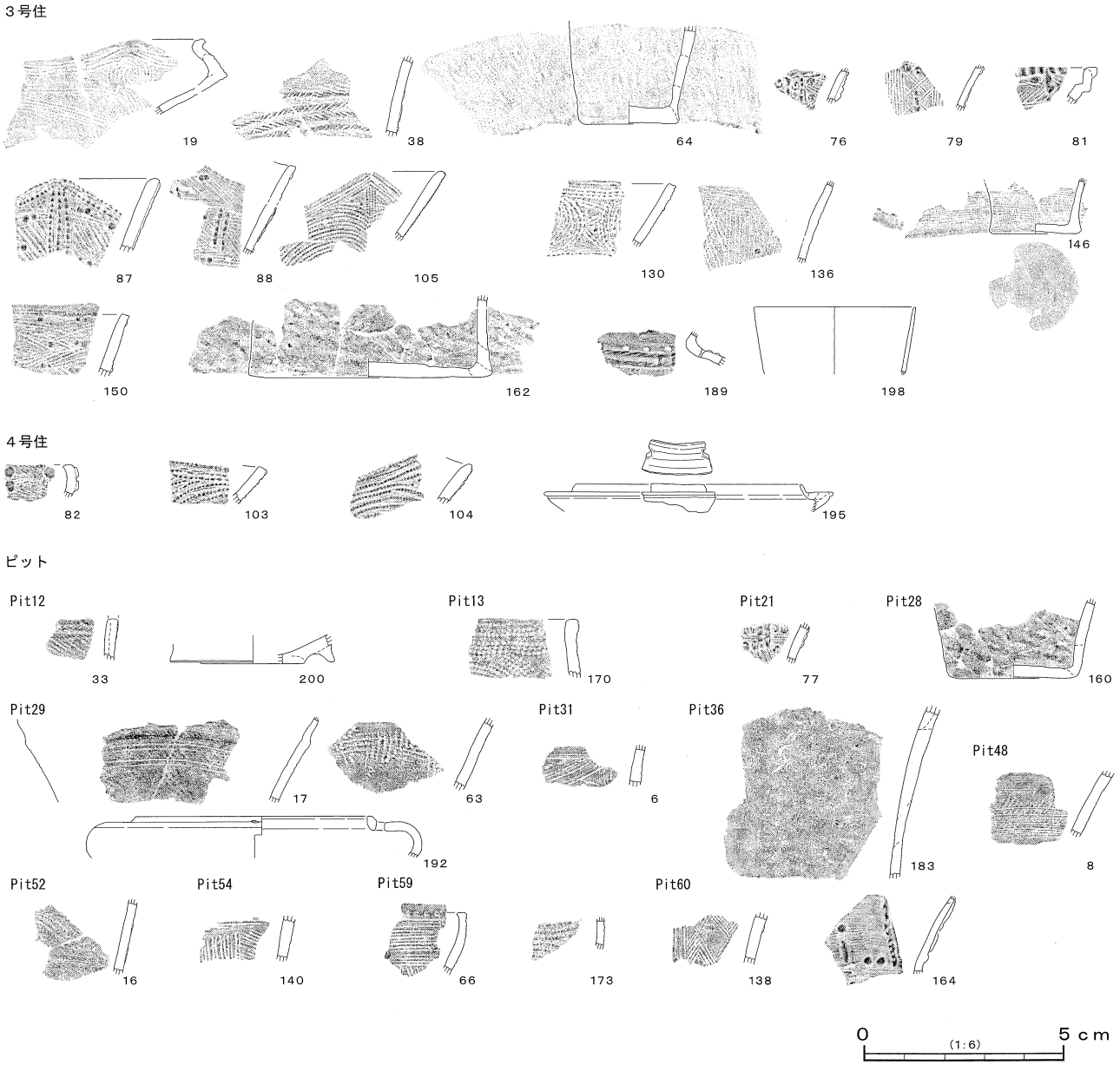
第６図 遺構全体図、１号住 炉


1号住 炉
1号住居跡
2号住居跡
3号住居跡
4号住居跡
5号土坑
6号土坑
1号土坑
2号土坑
333.65
333.90
333.70
335.4m
○ 諸磯b式期
● 諸磯c式期
◊ 十三菩提式
★ 縄文中期
■ 土製円盤
♦ 土製品
▲ 石製品
□ 古墳期
0
2m
(1:60)

第7図　遺物分布全図



第８図　１・２号住　出土遺物



第9図　3・4号住、ピット　出土遺物

第3節　土坑

本調査では4基を検出した。遺構番号は6号まで付したが、調査・整理による検討の結果、3・4号は欠番とした。

1号土坑

調査区西側に位置し、2号住居跡を破壊して構築される。平面形態は略円形で径は約1.2m、確認面からの深さは35cmを測る。土坑の底面は平坦で、壁面の立ち上がりは急である。出土した212は遺構確認段階から表面に露出しており、土器上部は欠損していたものの、体部はほぼ遺存していた。縄文時代中期の井戸尻式期に位置づけられる。調査所見から、土器を副葬した土坑墓と推定した。

2号土坑

調査区のほぼ中央に位置する。1号土坑の東側に隣接しており、同様な状態で検出した。Pit28・31と重複しているが、新旧関係ははっきりしない。重複により一部不明瞭であるが、平面形態は略円形で径は約1.3m、確認面からの深さは0.9mを測る。1号土坑と同様、土坑墓と推定した。出土した213・214の年代はやや古く、縄文中期の藤内式新段階に位置づけた。

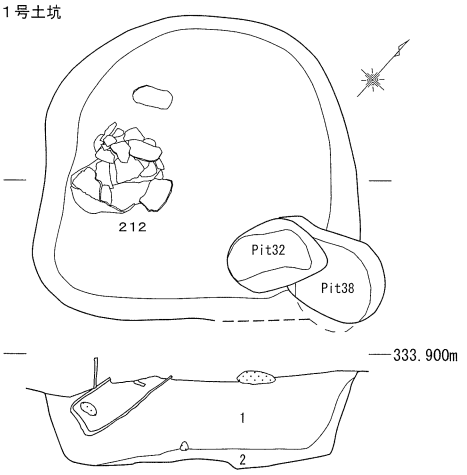
5号土坑

調査区南側に位置し、2号住床面で確認した。平面形態は楕円形を呈し、規模は長軸約1.6m、短軸約0.8m、2号住居床面からの深さは約20cmを測る。竪穴住居跡に関連する施設としたが、性格は不明である。

6号土坑

調査区北壁際に位置し、1号住を壊していた。北側は調査区外に延び、平面形態は明確ではない。壁面断面観察から径1.3m、遺構確認面からの深さは約0.6mを測る。性格については不明である。

1号土坑

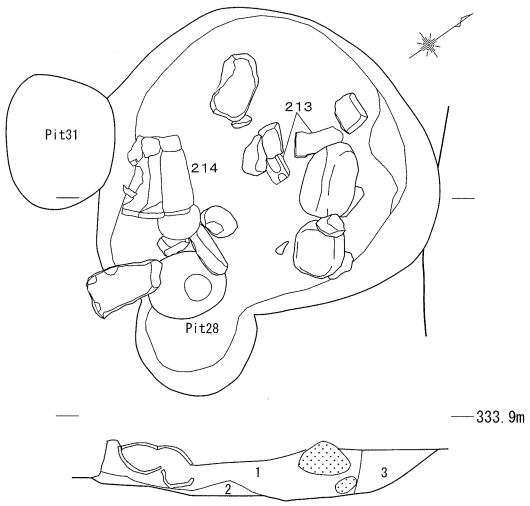


1号土坑

1 黒褐色粘質土（10YR2/3） 粘性極めて強。しまり強。炭化物有。
焼土粒有。白色砂粒混。埋甕内も同質。

2 黒褐色粘質土（10YR3/2） 黄色粒含。

2号土坑



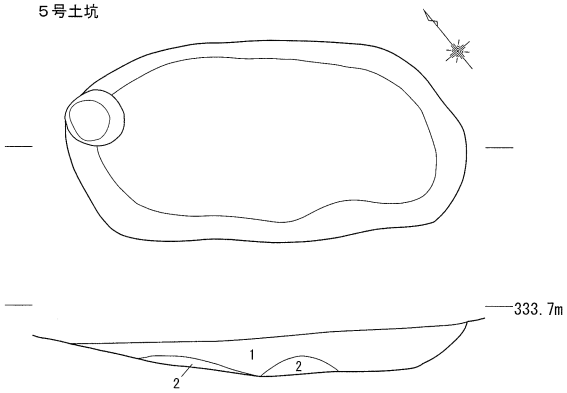
2号土坑

1 黒褐色粘質土（10YR2/3） 炭化粒、焼土粒、土器片、礫含。
しまり、粘性強。

2 暗褐色土（10YR3/4） ローム粒含。しまり、粘性有。
やや黄色味有。

3 褐色土（10YR4/4） ローム粒主。地山。白色粒有。

5号土坑

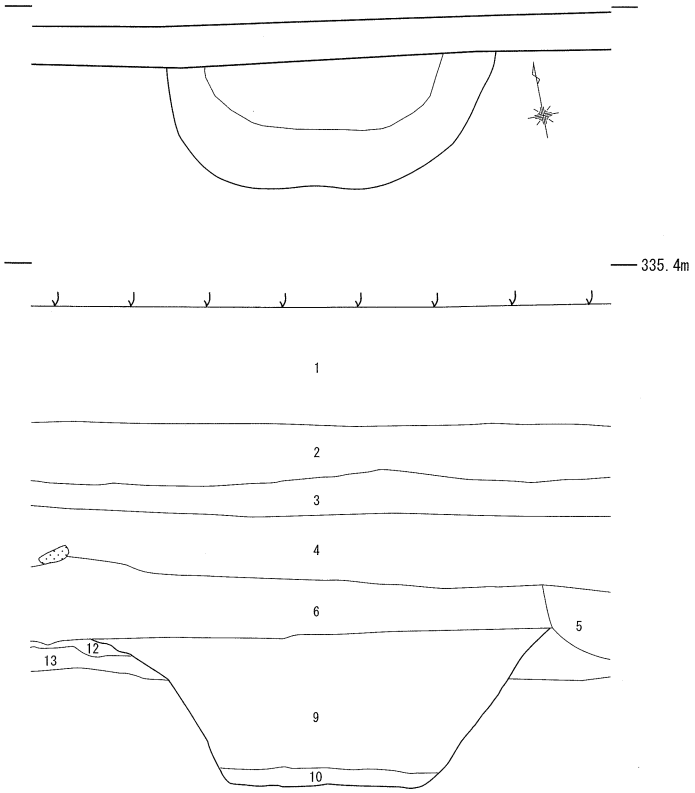


5号土坑

1 黒褐色粘質土（10YR3/2） しまり、粘性有。焼土、炭化物含。

2 暗褐色土（10YR3/3 しまり、粘性弱。砂質。

6号土坑



6号土坑

9 黒褐色粘質土（10YR2/3） しまり強、粘性有。焼土、炭化物、
白色砂粒を少量含む。土坑覆土。

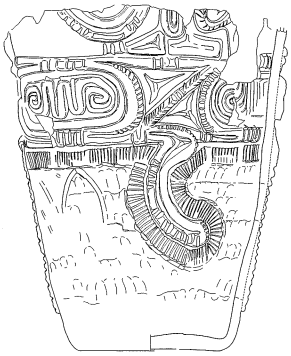
10 暗褐色土（10YR3/3） しまり、粘性有。砂質。土坑覆土。

12 暗褐色土（10YR3/3） しまりやや有、粘性有。砂質。
地山と黒色土の漸移層。

13 暗褐色土（10YR3/4） しまり、粘性有。砂質。地山層。
（他、第３図土説参照。）

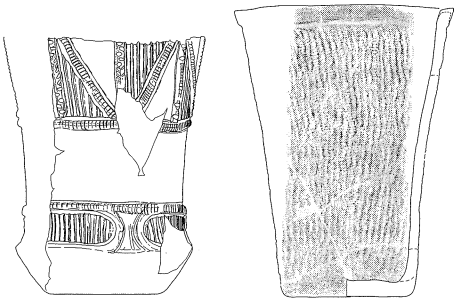
0 (1:30) 1m

1号土坑



212

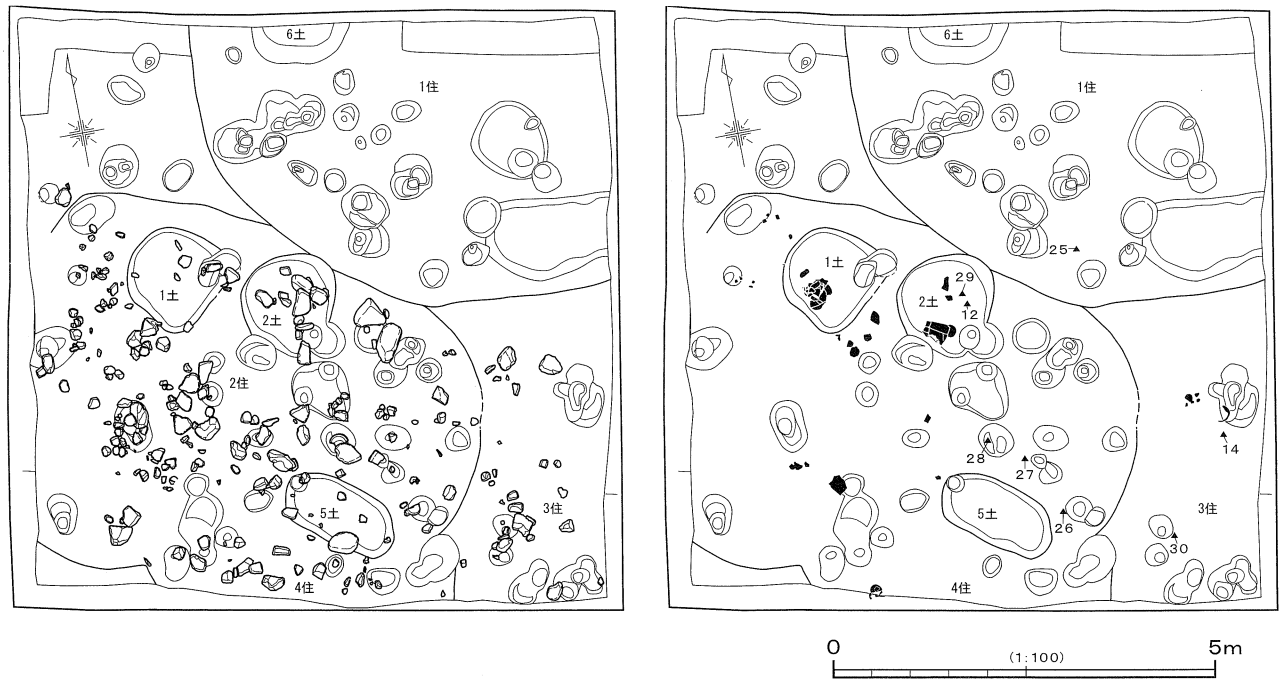
2号土坑



213 214

0 (1:4) 10cm

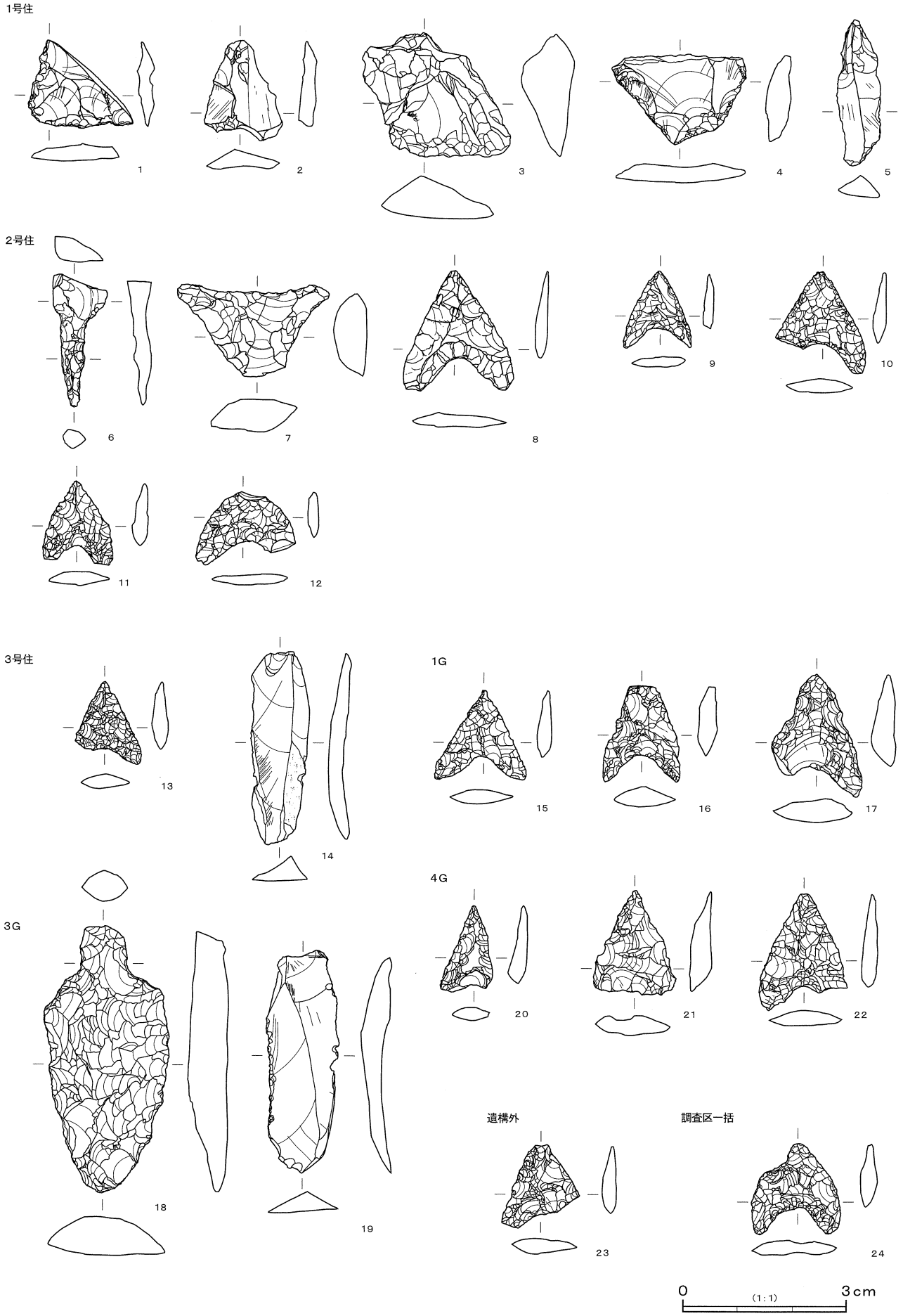
第10図　土坑



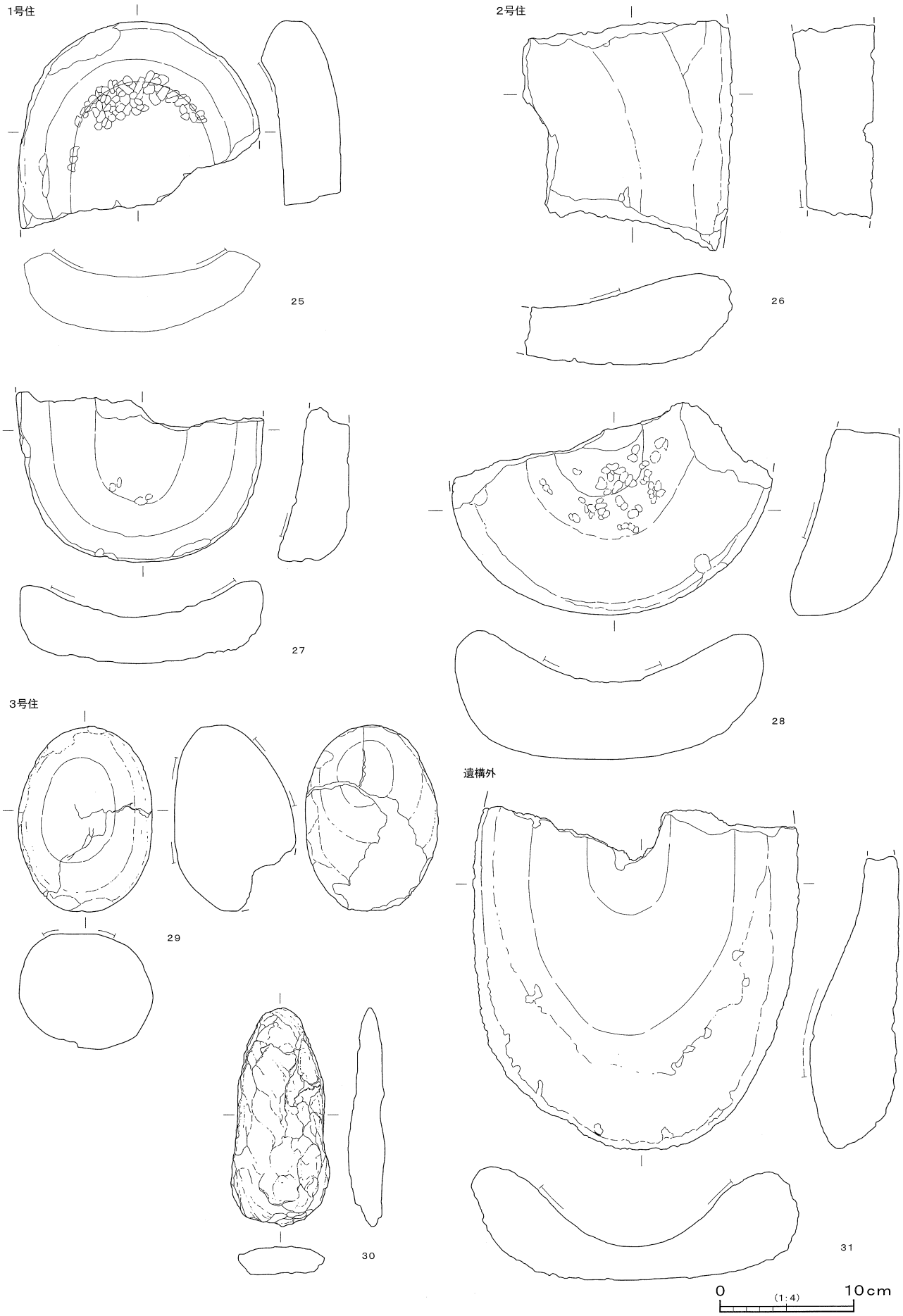
第11図　礫・一括遺物出土状況および石器出土位置

表２　石器観察表

図版	No.	地点	種別	長cm	幅cm	厚cm	重さg	石材	色調	注記	実測	備考
12	1	1号住	石鏃	1.6	2.0	0.3	0.86	黒曜石	黒透	1住下層	4	
12	2	1号住	石鏃	1.9	1.5	0.4	0.76	黒曜石	黒透	1住下層	5	
12	3	1号住	スクレイパー	2.3	2.7	1.0	4.39	黒曜石	黒	1住下層	1	
12	4	1号住	剥片	1.7	2.5	0.4	1.66	黒曜石	黒透	1住下層	3	加工痕あり
12	5	1号住	剥片	2.8	0.8	0.4	0.81	黒曜石	黒	1住下層	2	
12	6	2号住	石錐	2.5	1.0	0.5	0.75	黒曜石	黒	2住内4グリッド	6	
12	7	2号住	石錐	1.7	2.9	0.6	2.15	黒曜石	灰	2住内4グリッド	7	推定産地、蓼科冷山群
12	8	2号住	石鏃	2.3	2.1	0.3	0.98	チャート	オリーブ黒	2住上層	1	
12	9	2号住	石鏃	1.5	1.2	0.2	0.26	黒曜石	黒透	2住上層	3	
12	10	2号住	石鏃	1.9	1.7	0.3	0.54	黒曜石	黒透	2住上層	2	
12	11	2号住	石鏃	1.6	1.3	0.3	0.4	黒曜石	黒	2住上層	4	
12	12	2号住	石鏃	1.4	1.9	0.2	0.49	黒曜石	黒	133	5	
12	13	3号住	石鏃	1.6	1.2	0.3	0.32	黒曜石	黒透	3住4グリッド	1	
12	14	3号住	剥片	3.6	1.1	0.4	1.68	黒曜石	黒透	138	2	使用痕あり
12	15	1グリッド	石鏃	1.7	1.7	0.3	0.38	黒曜石	黒透	1グリッド	3	
12	16	1グリッド	石鏃	1.8	1.4	0.4	0.65	黒曜石	黒	1グリッド	1	
12	17	1グリッド	石鏃	2.3	1.7	0.5	1.11	黒曜石	黒	1グリッド遺構外	2	
12	18	3グリッド	石匙	5.0	2.3	0.7	7.6	黒曜石	黒	3グリッド遺構上面	2	
12	19	3グリッド	剥片	4.2	1.4	0.4	2.22	黒曜石	黒透	3グリッド遺構通上面	1	使用痕あり
12	20	4グリッド	石鏃	1.6	1.0	0.3	0.33	黒曜石	黒透	4グリッド遺構上面	1	
12	21	4グリッド	石鏃	1.9	1.5	0.4	0.81	黒曜石	黒透	4グリッド遺構上面	2	
12	22	4グリッド	石鏃	2.2	1.6	0.3	0.75	黒曜石	黒透	4グリッド遺構上面	3	
12	23	遺構外	石鏃	1.5	1.4	0.3	0.42	黒曜石	黒透	一括	1	
12	24	調査区一括	石鏃	1.7	1.6	0.3	0.62	黒曜石	黒透	一括		
13	25	1号住	石皿	(13.8)	(17.5)	5.9	1640	安山岩	褐灰	24	1	加工痕あり
13	26	2号住	石皿	(17.2)	(15.5)	6.4	2130	玄武岩質安山岩	(表)褐(裏)灰黄褐	173	5	
13	27	2号住	石皿	(11.5)	(18.2)	6.2	1200	玄武岩	褐灰	172	4	加工痕あり
13	28	2号住	石皿	(14.0)	(23.7)	9.4	3600	玄武岩	褐灰	171	3	加工痕あり
13	29	3号住	摩石	14.0	10.0	8.9	1610	花崗閃緑岩	黄灰	115	2	擦面2面
13	30	3号住	石斧	16.4	7.3	2.8	380	ホルンフェルス	灰黄～緑灰	16	6	
13	31	2グリッド	石皿	(25.5)	(24.3)	8.4	5800	玄武岩	灰黄褐	2グリッド5ソウ	7	使用痕あり


1号住
1
2
3
4
5
2号住
6
7
8
9
10
11
12
3号住
13
14
1G
15
16
17
3G
18
19
4G
20
21
22
遺構外
23
調査区一括
24
0
(1:1)
3cm

第12図　石製品（1）



第13図　石製品（2）

表３　土器観察表

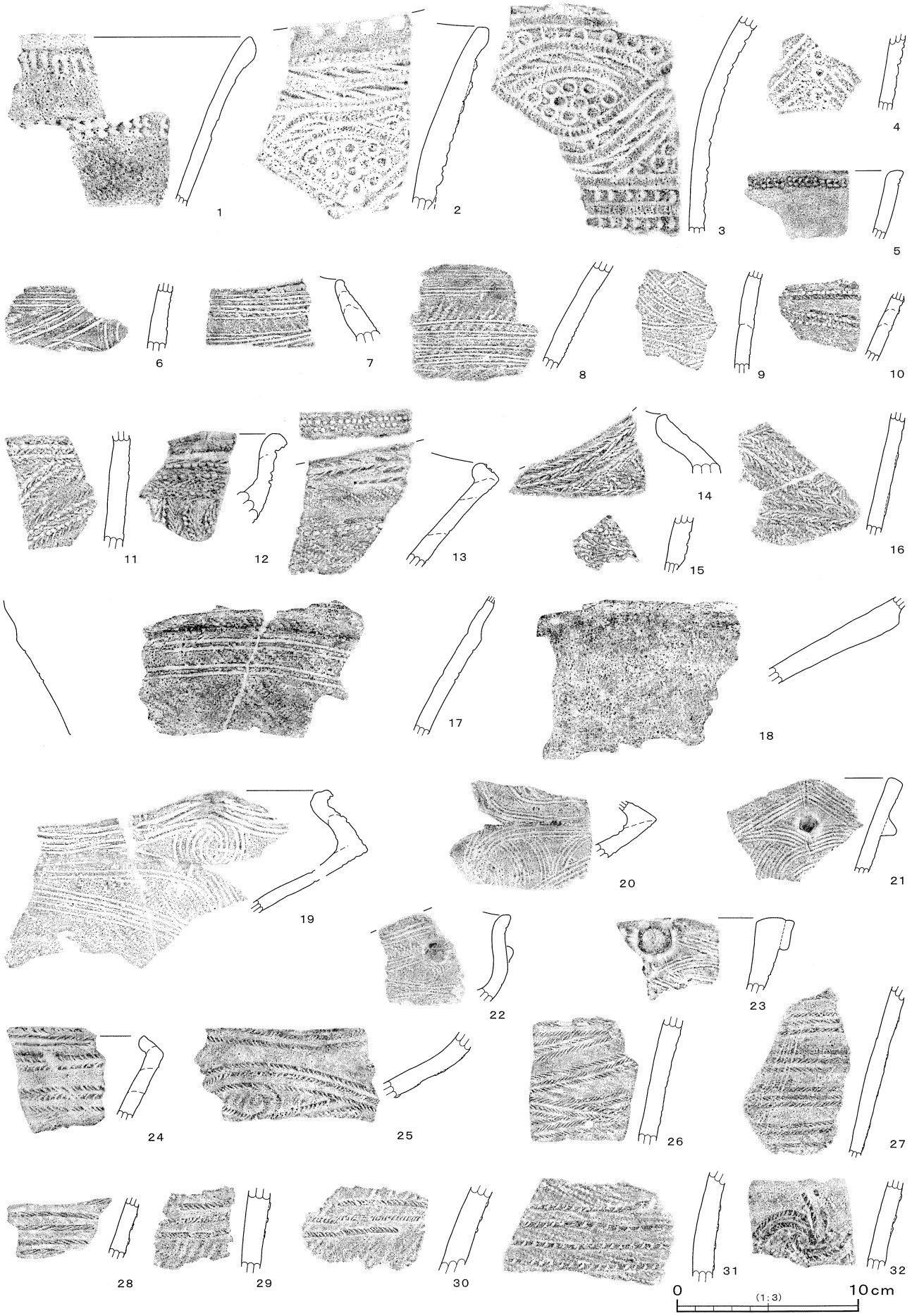
図版	No.	地点	種別	器種	口	底	高	整形技法	色調	胎土	注記	実測	備考
14	1	2住	縄文	深鉢	－	－	－	竹管による爪形文（2単位）、縄文地文	明赤褐	砂礫、白	2住1土、一括	38	
14	2	1住	縄文	深鉢	－	－	－	竹管による爪形文、斜め刻み浮線文、口唇に竹管押捺、竹管による円形刺突	(内)にぶい黄褐（外)明赤褐	白多、雲	22	1	
14	3	1G	縄文	深鉢	－	－	－	竹管による爪形文、結節沈線文、竹管による円形刺突	明黄褐	白、砂礫、雲	1グ、2グ	13	
14	4	1住	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、竹管による円形刺突	明赤褐	白多	1住下層	2	
14	5	2住	縄文	深鉢	－	－	－	4単位櫛歯状刺突	橙	白、黒、赤	77	9	
14	6	Pit31	縄文	深鉢	－	－	－	沈線	褐	白、石、黒、雲	68	7	
14	7	6土	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、縄文地文	明赤褐	白、黒、雲	6土	4	
14	8	Pit48	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、縄文地文	明赤褐	白、雲、黒、石	131	10	
14	9	1住	縄文	深鉢	－	－	－	沈線	(内)赤褐（外)暗赤褐	赤、白	26	18	
14	10	3G	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文、刺突文	明褐	白、雲、石、黒	3グ	27	
14	11	1住	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文、4単位櫛歯状刺突	(内)赤褐（外)明赤褐	白、雲少	1住下層	10	
14	12	2G	縄文	深鉢	－	－	－	刺突文、指頭痕	明赤褐	白、小礫、赤、雲	2グ	19	
14	13	4G	縄文	深鉢	－	－	－	刺突文、斜め刻み浮線文、縄文地文	(内)明赤褐（外)褐	金雲、白、黒	4グ	8	
14	14	1土	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文、刺突文	赤褐	白、雲、石	2住1土	1	
14	15	2住	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文、刺突文	明赤褐	砂礫、白、黒、雲	2住上層	10	
14	16	Pit58	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文	(内)明赤褐（外)黒褐	白	3住1ピット	12	
14	17	Pit29	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、縄文地文	褐	砂礫、白、雲	170	15	
14	18	2住	縄文	浅鉢	－	－	－	ナデ	橙	砂礫、白、黒、雲	82	18	劣化著しい
14	19	3住	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、縄文地文	(内)黄橙（外)橙	白、赤、雲	111・4グ	5	
14	20	1G	縄文	深鉢	－	－	－	沈線	明赤褐	白、赤、黒、雲	1グ	10	
14	21	3G	縄文	深鉢	－	－	－	貼付文、沈線	明褐	白、黒、雲	3グ	11	
14	22	4G	縄文	深鉢	(9.8)	－	－	沈線、貼付文、ヘラナデ	(内)暗赤褐（外)黒～褐	白、雲	4グ	8	
14	23	2住	縄文	深鉢	－	－	－	貼付文、沈線	明赤褐	白、砂礫、金雲	2住下層	31	
14	24	2G	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文、刺突文	にぶい褐	白、赤	2グ	3	
14	25	2住	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文	橙	赤、白、砂礫	2住	6	
14	26	2住	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文	橙	白、黒、砂礫	2住	8	
14	27	1G	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文	(内)明赤褐（外)赤褐	白、赤、黒、雲	1グ	7	
14	28	3G	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文	明赤褐	白、雲	3グ	8	
14	29	3G	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文、縄文地文	にぶい赤褐	白、石	3グ	7	
14	30	1土	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文、縄文地文	明赤褐	白、石	1土下層	3	
14	31	1土	縄文	深鉢	－	－	－	ヘラ切り浮線文、縄文、地文RL	明赤褐	白、石、雲、赤、黒	2住1土	2	
14	32	2住	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文	明赤褐	砂礫、白、黒	2住上層	7	
15	33	Pit12	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文、縄文地文	(内)にぶい赤褐（外)褐	石、白、黒、雲	1住12ピット	3	
15	34	3G	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文、縄文地文	(内)にぶい赤褐（外)暗赤褐	白、雲	3グ	10	
15	35	2G	縄文	深鉢	－	－	－	刺突文、斜め刻み浮線文、指頭痕	(内)明褐（外)橙	白、雲、黒	2グ	1	
15	36	2住	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文	明赤褐	白、黒、赤、金雲	103	2	
15	37	2住	縄文	深鉢	(6.2)	－	－	斜め刻み浮線文、ケズリ	(内)極暗赤褐（外)赤褐	白多、雲少	134	10	
15	38	3住	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文、ケズリ？	(内)明褐～黒褐（外)明赤褐	白、赤、雲	3住・4グ	4	
15	39	2住	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文	明赤褐	白、黒、金雲	2住上層	42	
15	40	2住	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文	赤褐	白、赤、黒、雲	2住上層	3	
15	41	2住	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、斜め刻み浮線文	明赤褐	白、黒、赤、砂礫	2住	1	
15	42	4G	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文	(内)灰褐（外)明褐	金雲、砂礫、白、黒	4グ	16	
15	43	3G	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文、貼付文	赤褐	白、雲、石	3グ	9	
15	44	1G	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文、貼付文	赤褐	白、黒、雲	1グ5ソウ	8	
15	45	1G	縄文	深鉢	－	－	－	結節浮線文	浅黄橙	赤・白微	1グ	28	
15	46	1住	縄文	深鉢	－	－	－	浮線文	褐	白、雲	43	3	
15	47	2G	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文	(内)赤褐（外)にぶい赤褐	白、雲、黒、赤、小礫	2グ	2	
15	48	4G	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文	(内)橙（外)明赤褐	白、黒、雲	4グ	15	
15	49	4G	縄文	深鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文	明赤褐	白、黒、金雲	4グ	7	内面焼成後刺突か
15	50	1住	縄文	深鉢	－	－	－	半截竹管による爪形文（押引文）、斜め刻み浮線文	明褐	白	1住下層	9	竹管幅狭い
15	51	3G	縄文	深鉢	－	－	－	半截竹管による爪形文（押引文）、斜め刻み浮線文	(内)赤褐（外)褐	白、雲、石	3グ	23	竹管幅狭い
15	52	2G	縄文	深鉢	－	－	－	半截竹管による爪形文（押引文）、斜め刻み浮線文	褐	白、雲、赤、黒	2グ	6	竹管幅広い
15	53	3G	縄文	深鉢	－	－	－	竹管による円形刺突、斜め刻み浮線文	褐	白、雲、黒	3グ	26	
15	54	2G	縄文	深鉢	－	－	－	竹管による円形刺突および爪形文、縄文地文	明赤褐	白、雲、赤	2グ	18	
15	55	3G	縄文	深鉢	－	－	－	半截竹管による爪形文	(内)赤褐（外)褐	白、黒	3グ	24	
15	56	1G	縄文	深鉢	－	－	－	縄文	明褐	白、黒、金雲	1グ	9	
15	57	2住	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、縄文地文（無節L）	明赤褐	白、黒、雲	65	5	
15	58	2住	縄文	深鉢	－	－	－	縄文	明赤褐	白、雲、砂礫	1	4	
15	59	調査区	縄文	深鉢	－	－	－	縄文	明褐	白多、雲やや多	一括	25	
15	60	2住	縄文	深鉢	－	－	－	縄文	明赤褐	砂礫、白、黒、赤、雲母	164	16	
15	61	2G	縄文	深鉢か	－	－	－	ヘラ刻み浮線文？、縄文地文	にぶい黄橙	白、赤、雲微	2グ	26	
15	62	4住	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、縄文地文	暗赤褐	白、黒少	180	5	
15	63	Pit29	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、縄文、縄文圧痕	赤褐	白、雲、黒、石	129	6	
15	64	3住	縄文	深鉢	－	9.2	－	縄文、指頭圧痕	橙	白、黒	137	1	
16	65	2住	縄文	深鉢	－	－	－	刺突文、半截竹管刺突ボタン状貼付文、羽状沈線、平行沈線	赤褐	白、黒、金雲	175	30	
16	66	Pit59	縄文	深鉢	－	－	－	半截竹管刺突ボタン状貼付文、平行沈線	明赤褐	白、雲、黒	151	15	
16	67	1G	縄文	深鉢	－	－	－	平行沈線、半截竹管刺突ボタン状貼付文、押捺貼付文	明赤褐	白、黒、砂礫、雲	1グ	11	
16	68	6土	縄文	深鉢	－	－	－	羽状沈線、半截竹管刺突貼付文、押捺貼付文	明赤褐	白、黒、雲	6土	3	
16	69	4G	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、貼付文、棒状貼付文の左・右・上面に半截竹管押捺	(内)明赤褐（外)にぶい赤褐	白、黒、雲	4グ	12	
16	70	4G	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、半截竹管刺突ボタン状貼付文、棒状浮線文	明赤褐	白、黒、雲	4グ	11	
16	71	1G	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、半截竹管刺突ボタン状貼付文、押捺結節浮線文	(内)赤褐（外)褐	砂礫、黒、白、金雲	1グ	12	
16	72	4G	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、半截竹管刺突ボタン状貼付文、押捺結節浮線文	(内)明褐（外)赤褐	砂礫、白、黒、雲	4グ	13	
16	73	4G	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、押捺結節浮線文	(内)褐（外)明赤褐	白、雲	4グ	14	
16	74	1G	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、押捺結節浮線文	褐	砂礫、白、黒、雲	1グ	6	
16	75	2住	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、押捺結節浮線文	赤褐	白、黒、砂礫、雲	2住	32	
16	76	3住	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、半截竹管刺突ボタン状貼付文、押捺結節浮線文	(内)明褐（外)暗褐	白、雲少	3住	15	
16	77	Pit21	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、半截竹管刺突ボタン状貼付文、押捺結節浮線文	(内)明赤褐（外)褐	雲、石、白、黒	29	2	
16	78	1住	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、半截竹管刺突ボタン状貼付文	(内)赤褐（外)暗赤褐	白、黒	35	6	
16	79	3住	縄文	深鉢	－	－	－	平行沈線、半截竹管刺突貼付文、結節浮線文	暗褐	黒、白少	3住	14	
16	80	3G	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、貼付文、棒状結節浮線文、口唇角部に押捺結節文	明赤褐	白、黒、雲	3グ	15	
16	81	3住	縄文	深鉢	－	－	－	口唇部鋸歯状刻目、羽状沈線、ボタン状貼付文	暗赤褐	白多	3住	11	
16	82	4住	縄文	深鉢	－	－	－	羽状沈線、縦2対ボタン状貼付文	(内)明赤褐（外)暗褐	白、赤、雲少	4住	4	
16	83	2G	縄文	深鉢	－	－	－	羽状沈線、貼付文	(内)明褐（外)にぶい黄褐～暗褐	白、雲、黒	2グ	11	
16	84	2住	縄文	深鉢	(38.0)	－	－	羽状沈線、結節浮線文、2対ボタン状貼付文	明赤褐	白、黒、金雲	44～48・1グ	28	
16	85	3G	縄文	深鉢	－	－	－	羽状沈線、結節浮線文、2対ボタン状貼付文	(内)にぶい赤褐（外)赤褐	白、黒、雲	3グ	16	
16	86	2G	縄文	深鉢	(17.0)	－	－	羽状沈線、結節浮線文、2対ボタン状貼付文	(内)明赤褐（外)褐	白、黒、雲	2グ	9	
16	87	3住	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、結節浮線文、2対ボタン状貼付文	赤褐	白、黒、金雲	4	16	

図版	No.	地点	種別	器種	口	底	高	整形技法	色調	胎土	注記	実測	備考
16	88	3住	縄文	深鉢	－	－	－	羽状沈線、結節棒状浮線文、2対ボタン状貼付文	(内)赤褐 (外)暗赤褐	白多	3住	10	
16	89	2住	縄文	深鉢	－	－	－	結節浮線文、ボタン状貼付文、羽状沈線	明赤褐	白、赤、黒、雲	2住1土	46	
16	90	4G	縄文	深鉢	－	－	－	結節浮線文、貼付文、沈線	(内)黒褐 (外)赤褐	角多、白、黒、赤、雲	4グ	9	
16	91	2住	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、結節浮線文、2対ボタン状貼付文	(内)明赤褐 (外)にぶい赤褐	白、黒、砂礫、雲	2住	33	
16	92	3G	縄文	深鉢	－	－	－	平行沈線、結節浮線文、2対ボタン状貼付文	赤褐	白、黒	3グ	18	
16	93	4G	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、結節浮線文、ボタン状貼付文	(内)赤褐 (外)にぶい赤褐	白、黒、雲、砂礫	4グ	5	
16	94	2住	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、結節浮線文、2対ボタン状貼付文	(内)赤褐 (外)にぶい赤褐	白、黒、金雲	3	29	
16	95	2G	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、結節浮線文	(内)赤褐 (外)暗褐	白、雲、赤、黒	2グ	4	
16	96	2住	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、結節浮線文、2対ボタン状貼付文	明赤褐	白、黒、赤、雲	2住	36	
16	97	1住	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、結節浮線文、ボタン状貼付文	(内)黒褐 (外)明黄褐	赤、白	42	14	
17	98	2住	縄文	深鉢	－	－	－	浮線文、貼付文	明赤褐	白、黒、砂礫	139	35	
17	99	1G	縄文	深鉢	(37.8)	－	－	押捺結節浮線文、沈線、2対ボタン状貼付文	(内)明赤褐 (外)にぶい赤褐	白、黒、赤、雲	1グ、1グ5ソウ	1	渦巻状
17	100	2住	縄文	深鉢	(36.4)	－	－	押捺結節浮線文、沈線、2対ボタン状貼付文	明赤褐	白、黒、雲	2住・4グ	24	
17	101	1G	縄文	深鉢	－	－	－	押捺結節浮線文	(内)赤褐 (外)明褐	砂礫、白、雲	1グ	3	
17	102	2住	縄文	深鉢	－	－	－	押捺結節浮線文	暗褐	白、黒、砂礫、金雲	154	43	
17	103	4住	縄文	深鉢	－	－	－	押捺結節浮線文	暗赤褐	白、雲少	4住	3	
17	104	4住	縄文	深鉢	－	－	－	押捺結節浮線文	(内)橙 (外)暗褐	白、赤、黒少	4住	2	渦巻状
17	105	3住	縄文	深鉢	－	－	－	結節浮線文、ボタン状貼付文	赤褐	白、雲、黒少	3住	7	渦巻状
17	106	2住	縄文	深鉢	(46.6)	－	－	結節浮線文、ボタン状貼付文	赤褐	白、黒、金雲	2住・3住	23	渦巻状
17	107	6土	縄文	深鉢	－	－	－	結節浮線文、ボタン状貼付文	明赤褐	白、黒、雲	6土・1グ・2グ	1	
17	108	3G	縄文	深鉢	－	－	－	結節浮線文	(内)灰黄褐 (外)黒褐	白	3グ	14	
17	109	4G	縄文	深鉢	－	－	－	結節浮線文、ボタン状貼付文	明赤褐	白、黒	4グ	1	渦巻状
17	110	1住	縄文	深鉢	－	－	－	結節浮線文	明赤褐	雲多	1住上層	15	
17	111	2住	縄文	深鉢	－	－	－	結節浮線文、ボタン状貼付文	明赤褐	白、黒、砂礫、雲	159	25	渦巻状
17	112	1G	縄文	深鉢	－	－	－	結節浮線文、貼付文、沈線	赤褐	白、赤、黒、雲	1グ	5	
17	113	3G	縄文	深鉢	－	－	－	結節浮線文、ボタン状貼付文、沈線	明赤褐	白、雲、黒	3グ	19	
17	114	1住	縄文	深鉢	－	－	－	結節浮線文、ボタン状貼付文、沈線	(内)赤褐 (外)暗赤褐	白多	5	17	
17	115	1G	縄文	深鉢	－	－	－	結節浮線文	(内)赤褐 (外)褐	白、黒、雲	1グ、3グ	2	渦巻状
17	116	3G	縄文	深鉢	－	－	－	結節浮線文、ボタン状貼付文	(内)にぶい赤褐 (外)暗褐	白、黒、雲	3グ	13	渦巻状
17	117	3G	縄文	深鉢	－	－	－	結節浮線文	(内)赤褐 (外)暗褐	白、黒、雲	3グ	12	渦巻状
17	118	2住	縄文	深鉢	－	－	－	結節浮線文	赤褐	白、黒、砂礫	49	44	渦巻状
17	119	2住	縄文	深鉢	－	(12.0)	－	結節浮線文、ボタン状貼付文	明赤褐	砂礫、白黒、金雲	79	20	
17	120	2住	縄文	深鉢	－	(15.1)	－	結節浮線文、ボタン状貼付文	橙	白、黒、砂礫、雲	53～56・69・70・2住上層	19	モチーフ4単位(2対か)
18	121	2住	縄文	深鉢	(59.6)	－	－	沈線、ボタン状貼付文、結節沈線	明赤褐	白、黒	74・3グ	26	渦巻状沈線
18	122	2住	縄文	深鉢	－	－	－	羽状沈線	明赤褐	白多、石、黒、雲	136	8	
18	123	2G	縄文	深鉢	－	－	－	羽状・平行沈線	(内)明赤褐 (外)褐	白、雲、赤	2グ	8	
18	124	1住	縄文	深鉢	－	－	－	羽状・平行沈線	(内)明赤褐 (外)暗赤褐	雲多	27	24	
18	125	4G	縄文	深鉢	－	－	－	鋸歯状・平行沈線	(内)明赤褐 (外)褐	砂礫、白、赤、雲	4グ	6	
18	126	3G	縄文	深鉢	－	－	－	羽状・平行沈線	赤褐	白、黒、雲	3グ	17	
18	127	2住	縄文	深鉢	－	－	－	平行沈線	明赤褐	白、黒、雲、砂礫	2住	12	十三菩提式期か
18	128	2住	縄文	深鉢	－	－	－	平行沈線	にぶい黄橙	白、黒	2住	11	十三菩提式期か
18	129	4住	縄文	深鉢	－	－	－	平行沈線	灰黄褐	赤少、白・雲微	4住	27	十三菩提式期か
18	130	3住	縄文	深鉢	－	－	－	ボタン状貼付文、結節沈線文、口唇部に沈線	(内)明赤褐 (外)暗赤褐	雲多、白、黒	3住	8	
18	131	4G	縄文	深鉢	－	－	－	ボタン状貼付文、結節沈線文	(内)明赤褐 (外)にぶい赤褐	白、黒、金雲	4グ	2	
18	132	2G	縄文	深鉢	－	－	－	ボタン状貼付文、結節沈線文	(内)明赤褐 (外)にぶい赤褐	白、雲、小礫、黒	2グ	5	
18	133	1土	縄文	深鉢	－	－	－	ボタン状貼付文、結節沈線文、沈線	赤褐	白、黒、雲	1土下層	4	
18	134	2G	縄文	深鉢	－	－	－	結節沈線文、沈線	(内)明赤褐 (外)褐	白、黒、雲、小礫	2グ	15	
18	135	4G	縄文	深鉢	－	－	－	結節沈線文、沈線	赤褐	金雲、白、砂礫	4グ・2グ	3	
18	136	3住	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、ボタン状貼付文	(内)明赤褐 (外)暗褐	白、黒	116	12	
18	137	1住	縄文	深鉢	－	－	－	2対ボタン状貼付文、結節沈線文、沈線	(内)赤褐 (外)褐～黒褐	白、雲多	10	16	
18	138	Pit60	縄文	深鉢	－	－	－	2対ボタン状貼付文、平行沈線	赤褐	雲、白	4住3ピット	14	
18	139	4G	縄文	深鉢	－	－	－	沈線	(内)褐灰 (外)黄橙	白少	4グ	29	
18	140	Pit54	縄文	深鉢	－	－	－	沈線	にぶい褐	石、白、雲、黒	3住3ピット	13	
18	141	2住	縄文	深鉢	－	12.7	－	結節沈線文、沈線	明赤褐	白、黒、金雲	13・141・2住	21	
18	142	1住	縄文	深鉢	－	10.4	－	結節沈線文、沈線	赤褐	雲多、白、黒	12	20	
18	143	1住	縄文	深鉢	－	(15.2)	－	沈線	赤褐	白、黒	25	8	
19	144	2住	縄文	深鉢	－	(11.0)	－	沈線	赤褐	白、黒、砂礫	73・2住上層	13	
19	145	1住	縄文	深鉢	－	－	－	沈線	明赤褐	白、黒、雲	28	5	
19	146	3住	縄文	深鉢	－	8.4	－	沈線	(内)暗赤褐 (外)赤褐	白、黒、赤	117・3住	2	
19	147	1住	縄文	深鉢	－	(24.2)	－	沈線	にぶい赤褐	白、黒	11	21	
19	148	2G	縄文	深鉢	－	(14.0)	－	羽状沈線	(内)明赤褐～褐 (外)明褐	白、雲、黒	2グ	12	
19	149	1住	縄文	深鉢	－	－	－	羽状沈線	(内)明赤褐 (外)褐	白多、黒	15	25	
19	150	3住	縄文	深鉢	－	－	－	羽状沈線、2対ボタン状貼付文	黄褐	白、黒、雲少	3住	9	
19	151	2G	縄文	深鉢	－	－	－	羽状沈線、2対ボタン状貼付文	(内)赤褐 (外)にぶい赤褐	白、小礫、雲	2グ	7	
19	152	2住	縄文	深鉢	－	－	－	平行・羽状沈線、2対ボタン状貼付文	明褐	白、黒、砂礫、雲	146	37	
19	153	6土	縄文	深鉢	－	－	－	平行沈線、2対ボタン状貼付文	赤褐	白、雲、黒	6土	2	
19	154	4G	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、2対ボタン状貼付文	にぶい赤褐	白、黒	4グ	10	
19	155	2G	縄文	深鉢	－	－	－	粗い羽状沈線、貼付文	(内)明赤褐 (外)褐～灰褐	白、黒、小礫、雲	2グ	10	
19	156	2住	縄文	深鉢	－	－	－	粗い羽状沈線、2対ボタン状貼付文	赤褐	白、黒、砂礫、金雲	147・3グ	34	
19	157	2G	縄文	深鉢	－	－	－	粗い羽状沈線、2対ボタン状貼付文	明赤褐	白、小礫、黒、雲	2グ	14	
19	158	2G	縄文	深鉢	－	(13.0)	－	粗い羽状沈線、2対ボタン状貼付文	明赤褐	白、黒、雲、小礫	2グ	13	
19	159	2住	縄文	深鉢	－	16.5	－	羽状沈線、2対ボタン状貼付文	赤褐	白、黒、赤、雲	177・3グ	22	
19	160	Pit28	縄文	深鉢	－	11.6	－	指頭ナデ	明赤褐～明褐	白、黒、雲、長	174	4	
19	161	Pit59	縄文	深鉢	－	(15.9)	－	指頭ナデ	赤褐	白、黒、雲	178	18	
19	162	3住	縄文	深鉢	－	22.1	－	指頭ナデ、底部-網代痕	明赤褐	白、雲、黒、石	138	11	
20	163	2住	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、2対ボタン状貼付文、押捺貼付文、貼付文	(内)にぶい黄橙 (外)褐～にぶい黄橙	白、黒、赤、雲	143・179・2住	39	
20	164	Pit60	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、2対ボタン状貼付文、押捺貼付文、貼付文	にぶい黄橙	白、黒、赤	165	41	
20	165	2住	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、ボタン状貼付文、貼付文	(内)にぶい黄橙 (外)褐	白、黒、赤、金雲	179・2住	40	
20	166	1住	縄文	深鉢	－	8.6	－	羽状沈線、貼付文	(内)黒褐 (外)橙	砂礫、白、黒、赤	20	26	
20	167	1住	縄文	深鉢	－	－	－	結節沈線文、キャタピラ文(連条する細い結節沈線文)、貼付文	赤褐	白多、雲	1住上層	12	
20	168	2G	縄文	深鉢	－	－	－	口唇部に竹管押捺、指頭ナデ、貼付文	明赤褐	白、雲、黒	2グ	17	
20	169	2住	縄文	深鉢か	(9.4)	－	－	貼付文	黒～暗赤褐～赤褐	白、雲、赤微	2住	11	
20	170	Pit13	縄文	深鉢	－	－	－	結節沈線文、キャタピラ文(連条する細い結節沈線文)	にぶい赤褐	石、雲、黒	37	16	
20	171	4G	縄文	深鉢	－	－	－	結節沈線文、キャタピラ文(連条する結節沈線文)、貼付文、削り取り	(内)明赤褐 (外)明黄褐	金、黒、砂礫	4グ	4	
20	172	3G	縄文	深鉢	－	－	－	結節沈線文、キャタピラ文(連条する結節沈線文)、貼付文、削り取り	(内)にぶい褐 (外)にぶい黄褐	黒、赤、白	3グ	22	
20	173	Pit59	縄文	深鉢	－	－	－	結節沈線(浮線？)文	にぶい褐	白、黒	153	17	
20	174	1G	縄文	深鉢	－	－	－	平行沈線、ヘラ切り沈線、交互刺突文	明褐	白、黒	1グ	18	
20	175	3G	縄文	深鉢	－	－	－	キャタピラ文(連条する結節沈線文)、貼付隆帯(口縁折り返しか)	赤褐	白、雲	3グ	21	

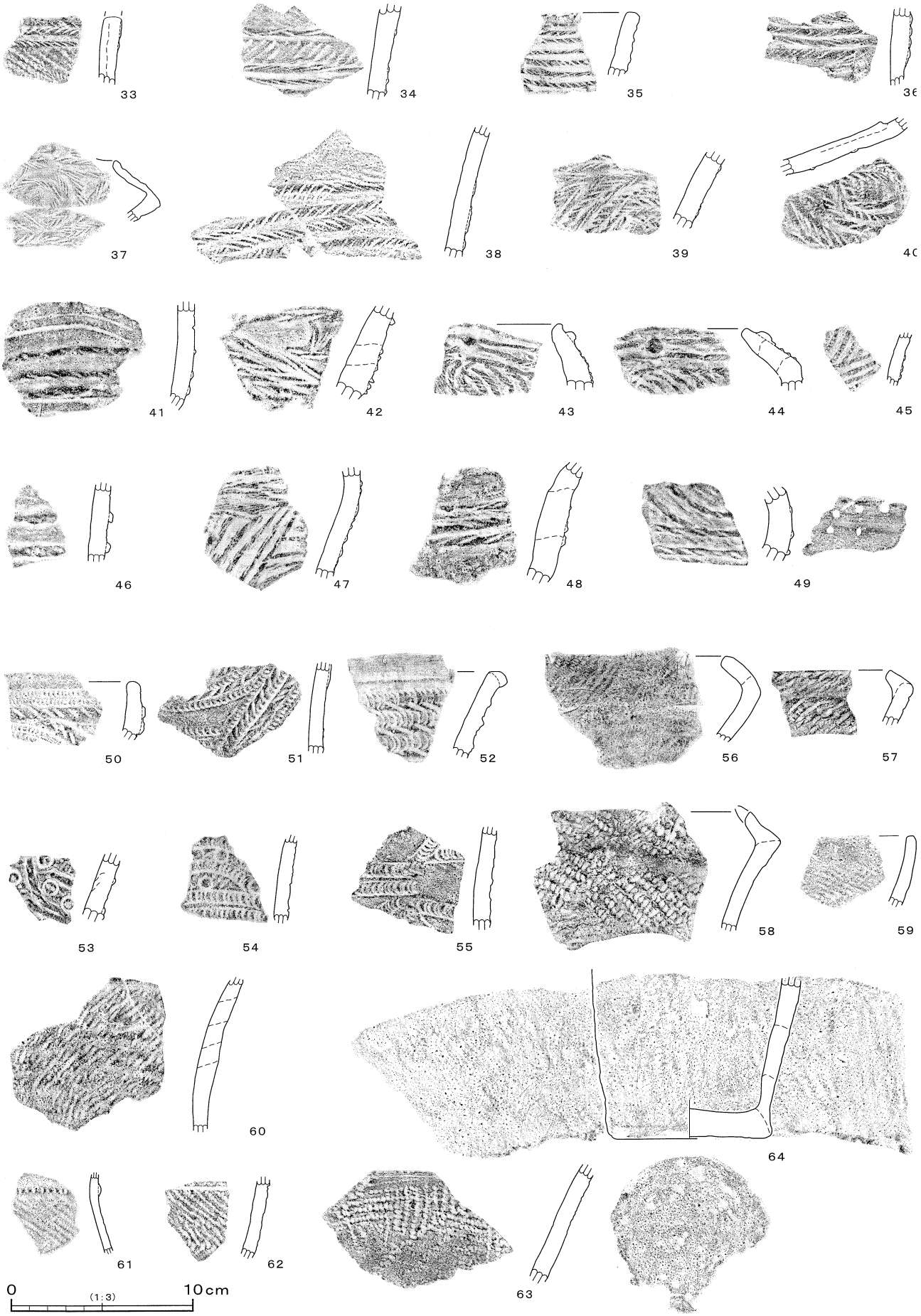
図版	No.	地点	種別	器種	口	底	高	整形技法	色調	胎土	注記	実測	備考
20	176	1住	縄文	深鉢	－	－	－	キャタピラ文(連条する結節沈線文)、貼付隆帯(口縁折り返しか)、貼付文	(内)赤褐 (外)黒褐	白、雲多	1住上層	11	
20	177	2G	縄文	深鉢	－	－	－	平行沈線、削り取り	明赤褐	白、雲、黒	2グ	16	
20	178	1G	縄文	深鉢	－	－	－	平行沈線、削り取り	(内)明赤褐 (外)にぶい赤褐	砂礫、白、黒、雲	1グ	16	
20	179	1住	縄文	深鉢	－	－	－	結節沈線文、三角交互刺突状削り取り、口唇部棒状貼付文	(内)にぶい赤褐 (外)明赤褐	白多	1住上層・1グ	23	
20	180	1G	縄文	深鉢	－	－	－	結節沈線文、三角交互刺突状削り取り、口唇部貼付文	赤褐	金雲、黒、赤	1グ	17	
20	181	1住	縄文	深鉢	－	－	－	結節沈線文、三角交互刺突状削り取り、口唇部棒状貼付文	(内)明赤褐 (外)暗赤褐	白、雲少	1住上層	22	
20	182	1G	縄文	深鉢	－	－	－	結節沈線文、三角交互刺突状削り取り、口唇部棒状貼付文	(内)明褐 (外)褐	砂礫、白	1グ	19	
21	183	Pit36	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	(内)にぶい褐 (外)暗褐	白、雲、黒	84	9	
21	184	3G	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	(内)橙 (外)褐	白、雲、石、黒	3グ	1	
21	185	3G	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ	(内)橙 (外)黒褐	白、雲、黒	3グ	2	
21	186	2住	縄文	深鉢	－	－	－	ナデ、指頭押捺貼付文	赤褐	砂礫、白、黒、金雲	2	14	
21	187	3G	縄文	浅鉢	－	－	－	沈線、ヘラ切り平行沈線文、ナデ	(内)にぶい赤褐 (外)赤褐	白、雲、黒	3グ	6	
21	188	3G	縄文	浅鉢	－	－	－	沈線、ヘラ切り平行沈線文、ナデ	赤褐	白、雲	3グ	5	
21	189	3住	縄文	浅鉢	－	－	－	斜め刻み浮線文、竹管による爪形文、穿孔4	暗褐	白、雲	3住	3	
21	190	3G	縄文	浅鉢	－	－	－	ナデ	赤褐	白、雲、黒	3グ	4	
21	191	2住	縄文	浅鉢	－	－	－	ナデ	赤褐	白、黒、赤、金雲	162	17	
21	192	Pit29	縄文	浅鉢	(21.7)	－	－	ナデ、穿孔3	明赤褐	白、黒、雲、赤	120	5	
21	193	1G	縄文	浅鉢	－	－	－	ナデ、穿孔3	明褐	白、黒、雲	1グ	15	
21	194	1G	縄文	深鉢	(18.0)	－	－	ナデ	(内)明赤褐 (外)赤褐	砂礫、白、赤、金雲	1グ	14	
21	195	4住	縄文	浅鉢	(20.6)	－	－	沈線、ナデ、穿孔2	橙～黒褐	白、黒	4住	1	
21	196	2G	縄文	浅鉢か	－	－	－	刺突3	にぶい黄褐	白、小礫、雲、黒	2グ	20	
21	197	4G	縄文か	椀か？	(13.0)	－	－	ナデ、穿孔2	明赤褐	白、黒	4グ	17	
21	198	3住	古墳か	坩か	(14.6)	－	－		にぶい黄橙	赤、白少	113	6	
21	199	1住	縄文	深鉢	－	(28.2)	－	ヘラナデ	明褐	白多、雲	1住上層	4	
21	200	Pit12	縄文	椀形	－	(15.0)	－	ナデ、高台状貼付	赤褐	雲、白、黒	40	1	
21	201	2住	古墳か	壷か	－	(7.2)	－	ロクロナデ、ナデ	橙	白、赤	2住	45	古代所産の可能性あり
22	212	1土	縄文	深鉢	－	15.0	－	隆帯上をヘラ刻み、キャタピラ文(押引文)、指頭圧痕	(内)黒褐～にぶい黄褐 (外)赤褐	白多、赤	85・163・2住1土・2住上層	5	
22	213	2土	縄文	深鉢	－	12.4	－	隆帯上をヘラ刻み、キャタピラ文(押引文)、交互刺突文、沈線	赤褐～灰黄褐	白多、赤微	114・157・160・161・166・167・2土、1グ、2グ	2	
22	214	2土	縄文	深鉢	23.2	12.4	30.6	縄文、沈線	(内)暗褐～褐 (外)暗赤褐～明赤褐色	白多、雲微	160・2土	3	
22	215	2G	縄文	深鉢	－	－	－	X状把手、隆帯ヘラ刻み、沈線	赤褐～褐灰	白、黒、雲、小礫	2グ	26	
22	216	2G	縄文	深鉢	－	－	－	粘土紐、沈線	橙	白、黒、小礫、赤、雲	2グ	25	
22	217	2G	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、縄文	橙	白、黒、雲	2グ	21	
22	218	2G	縄文	浅鉢	－	－	－	沈線、縄文	橙	白、黒、赤、雲、小礫	2グ	22	
22	219	1住	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、隆帯、刺突	にぶい黄褐	白多	19	7	
22	220	2G	縄文	深鉢	－	－	－	隆帯、沈線	にぶい黄褐～黒褐	白、黒、小礫、雲	2グ	24	
22	221	2G	縄文	深鉢	－	－	－	縄文、粘土紐	にぶい褐	白、小礫、黒、赤、雲	2グ	23	
22	222	3G	縄文	深鉢	－	－	－	沈線、隆帯、ナデ	橙	白、雲、黒	3グ	3	
22	223	1住	縄文	深鉢	－	－	－	縄文	赤褐	白	10	19	
25	229	3住	縄文	小型土器	(8.2)	－	－	沈線、ナデ	赤褐	白少、雲	3住	9	3号住
25	230	3住	縄文	小型土器	－	(5.0)	－	圧痕、ケズリ？	赤褐	白、雲	3住	12	3号住
25	231	2住	縄文	小型土器	(5.0)	－	－	ナデ、指頭痕	(内)明赤褐 (外)黒褐～暗褐	白多、黒	140	7	SB2
25	232	4G	縄文か	小型土器	3.3	－	－		赤褐	白多	4グ	13	4グリッド
25	233	調査区	縄文か	小型土器	4.5	－	－		赤褐	白少	一括	14	調査区一括
25	234	4G	縄文か	小型土器	－	－	－	ナデ	(内)暗赤褐 (外)赤褐	白、雲微	4グ	15	4グリッド
25	235	調査区	古墳か	手づくね	(5.0)	－	－		明黄褐～黄灰	白、赤少	一括	6	調査区一括
25	236	遺構外	古墳	土師器坏	(19.8)	－	－	ロクロナデ、ヘラケズリ	(内)橙～黒 (外)橙	白、赤、黒	一括	1	
25	237	遺構外	古墳	土師器高坏	－	－	－	ハケ目、ナデ	明褐	白、赤、黒	182	2	
25	238	遺構外	古墳	土師器甑	(24.6)	(9.0)	28.2	ナデ、タテミガキ	(内)黄橙 (外)黄橙～黒褐	白	181	3	

表4　土製品観察表

図版	No.	地点	種別	時期	縦cm	横cm	厚cm	重さg	整形技法	色調	胎土	胎土	注記	実測	備考
21	202	1号住	土製円盤	縄文前期	2.8	3.0	1.0	10	沈線、ナデ	明赤褐	やや密	白多	1住下層	16	
21	203	2号住	土製円盤	縄文前期	5.1	4.8	1.0	28	ヘラ切り浮線文、縄文地文LR	(内)黒褐 (外)にぶい黄橙	密	赤、白・雲微	2住	18	
21	204	2号住	土製円盤	縄文前期	4.6	4.9	1.1	26	結節浮線文	褐	やや粗	白多	107	22	
21	205	3グリッド	土製円盤	縄文前期	5.1	5.5	0.8	25	竹管による爪形文	赤褐	密	雲、黒、白	3グリッド	30	
21	206	2号住	土製円盤	縄文前期	5.8	5.9	1.1	47	結節浮線文、地文に平行沈線	(内)赤褐 (外)暗赤褐	密	白やや多	106	24	
21	207	3号住	土製円盤	縄文前期	5.8	5.6	1.0	42	羽状沈線、結節浮線文、貼付文	赤褐	密	雲多、白	3住	23	
21	208	2号住	土製円盤	縄文前期	4.8	－	1.0	14	沈線、浮線文	橙	やや粗	赤、白少、雲少	10	20	外面一部剥離
21	209	1号住	土製円盤	縄文前期	4.7	－	0.8	16	沈線、削り取り	(内)灰オリーブ (外)橙	粗	白多、赤・黒微	1住上層	21	十三菩提式期
21	210	1グリッド	土製円盤	縄文前期	3.6	3.2	1.2	14	沈線、削り取り	(内)黄褐 (外)赤褐	密	白多	1グリッド	17	十三菩提式期？
21	211	2グリッド	土製円盤	縄文前期	4.1	4.1	1.3	24	ナデ	暗褐	密	白・雲	2グリッド	19	
23	224	4グリッド	土偶	縄文中期	6.3	5.7	4.3	107	沈線、隆帯	赤褐	やや粗	白多、雲	4グリッド	1	
23	225	2グリッド	土偶	縄文中期	2.7	4.8	4.5	41	隆帯、沈線	明赤褐	密	白多、雲、赤少	2グリッド	2	
23	226	1グリッド	土偶	縄文中期	1.9	4.3	1.2	7		明褐～黄褐	粗	白多、雲	1グリッド	3	
23	227	2グリッド	獣面把手	縄文前期	2.8	2.8	2.2	13	貼付文、沈線	褐	粗	白、雲	2グリッド	4	猪頭か
23	228	3グリッド	把手	縄文前期	3.9	3.9	1.5	21	結節沈線文	暗褐	密	白、黒	3グリッド	5	ブリッヂ状


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
0
10cm
(1:3)

第14図　遺物（1）


33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
56
57
53
54
55
58
59
60
64
61
62
63
0
(1:3)
10cm

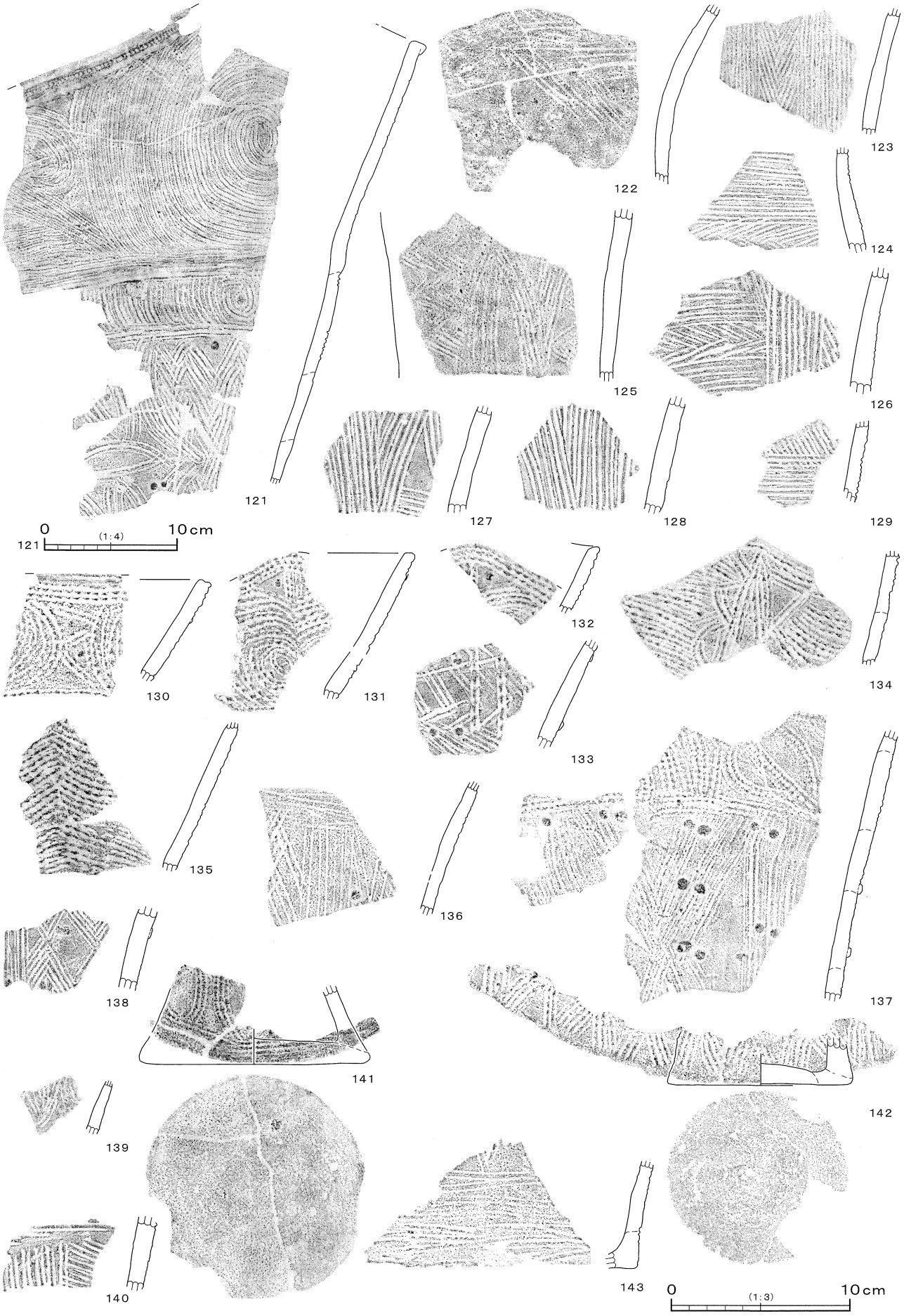
第15図　遺物（2）

65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
0
10cm
(1:3)

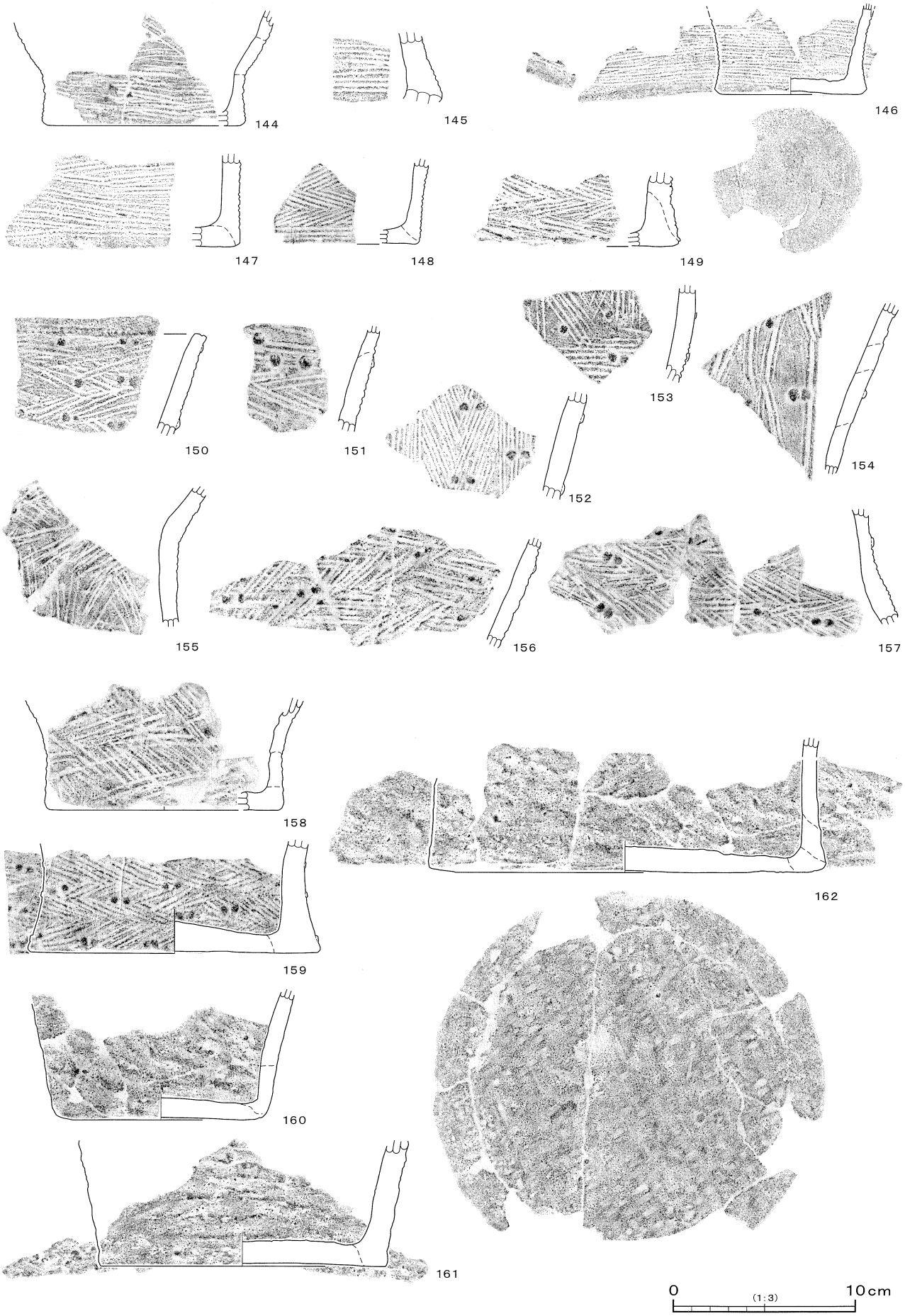
第16図　遺物（3）

98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
0
(1:3)
10cm

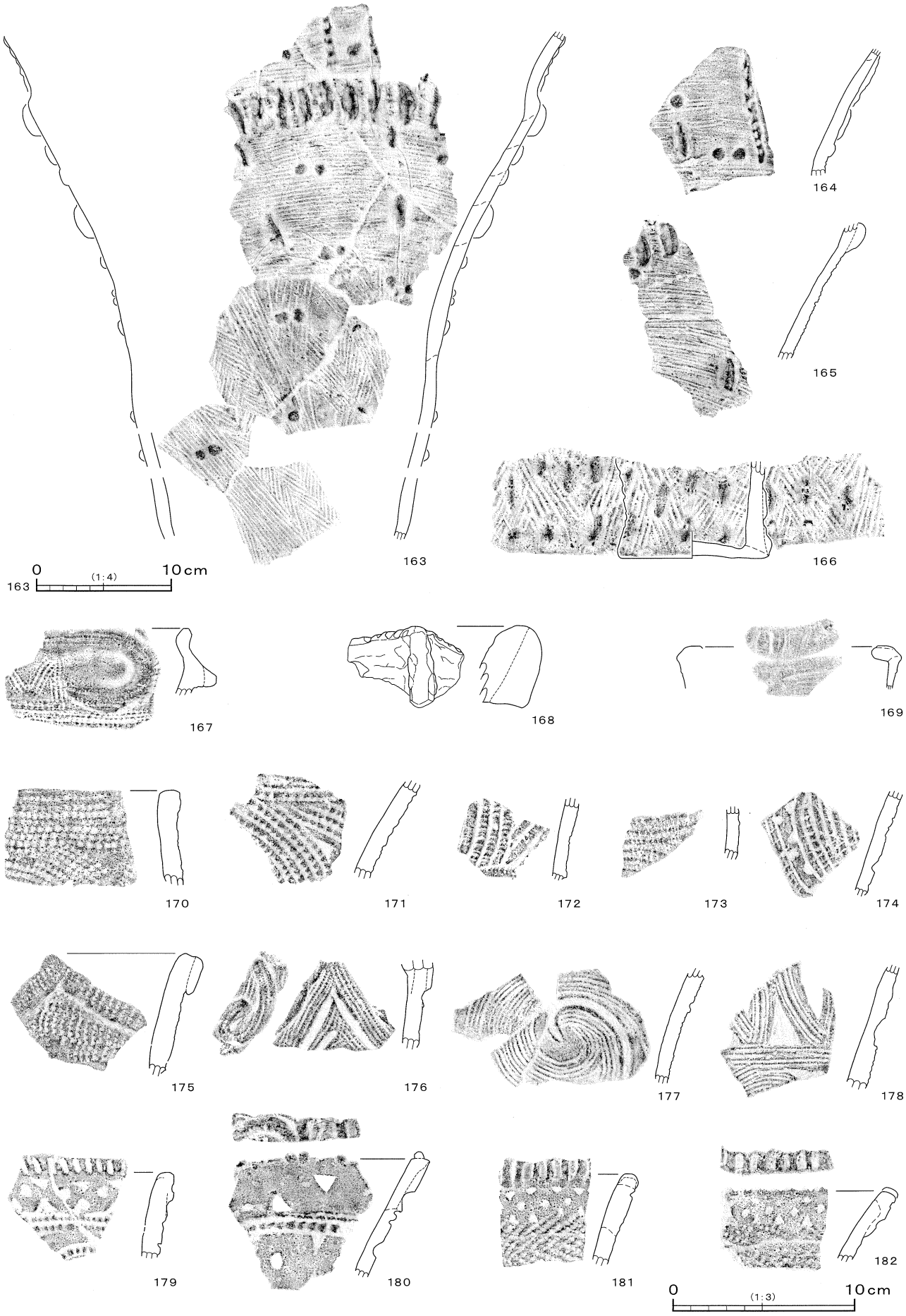
第17図　遺物（4）


121
122
123
124
125
126
127
128
129
0
10cm
121
(1:4)
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
0
10cm
(1:3)

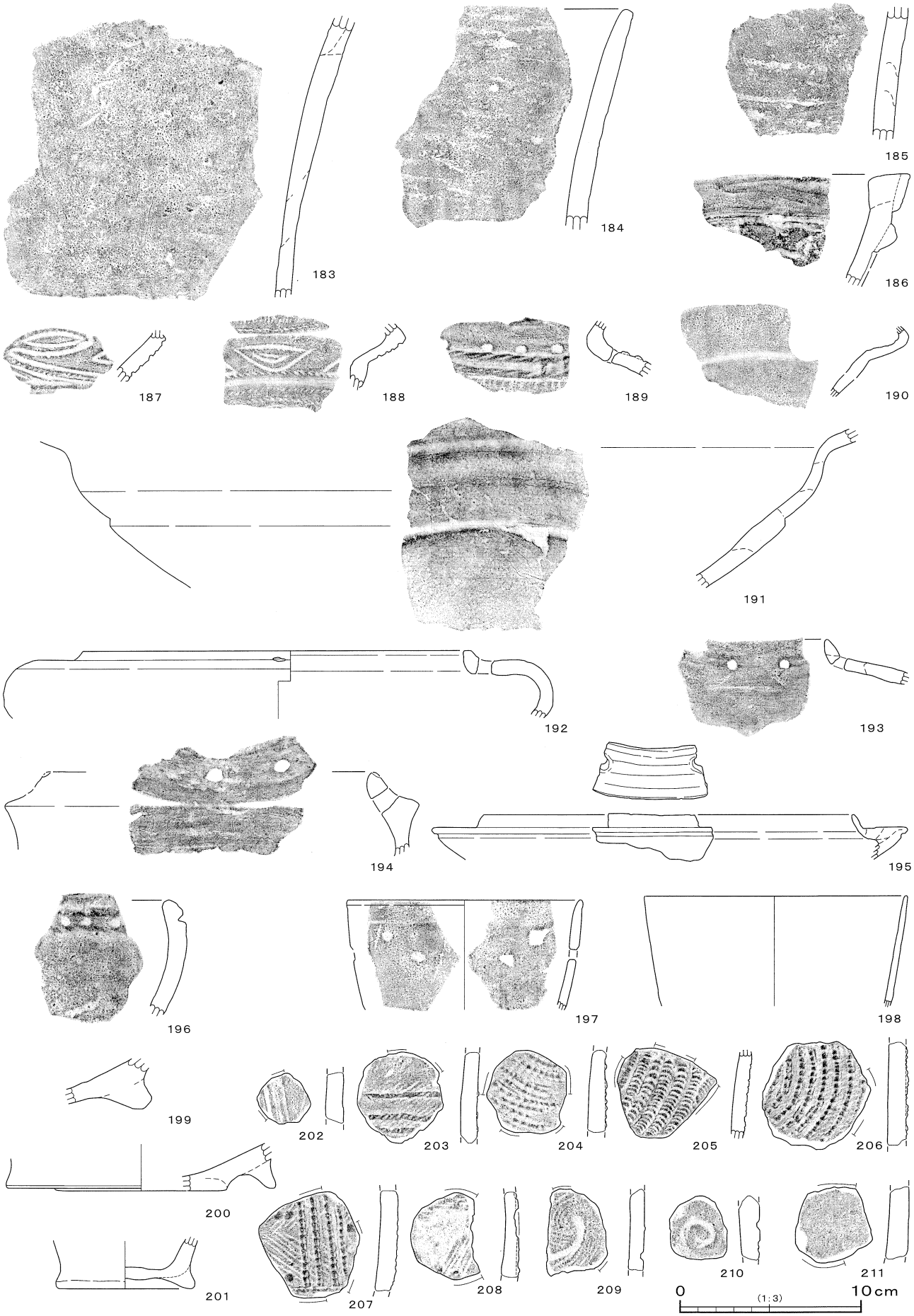
第18図　遺物（5）


144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
0
(1:3)
10cm

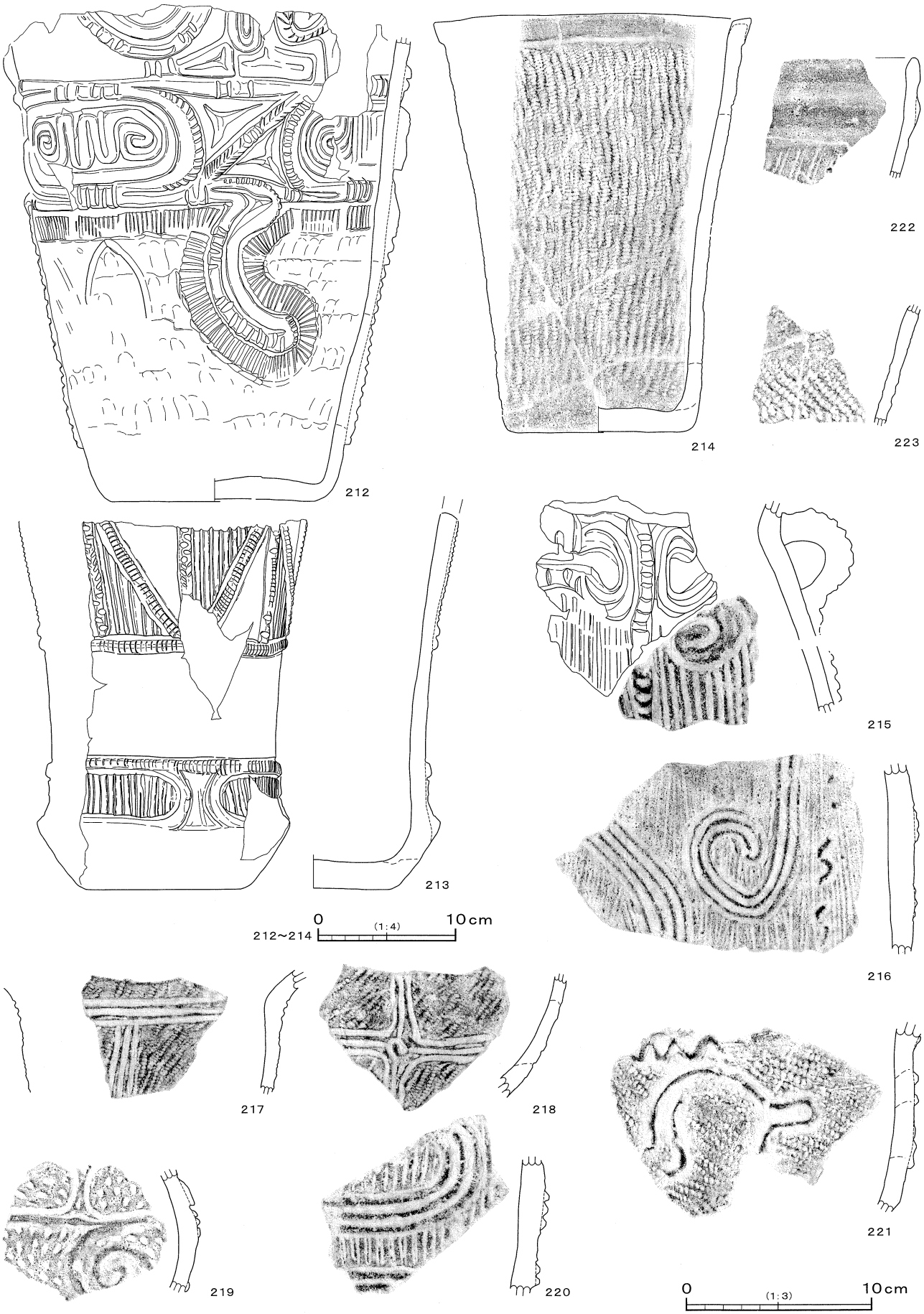
第19図　遺物（6）


163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
0 (1:4) 10cm
0 (1:3) 10cm

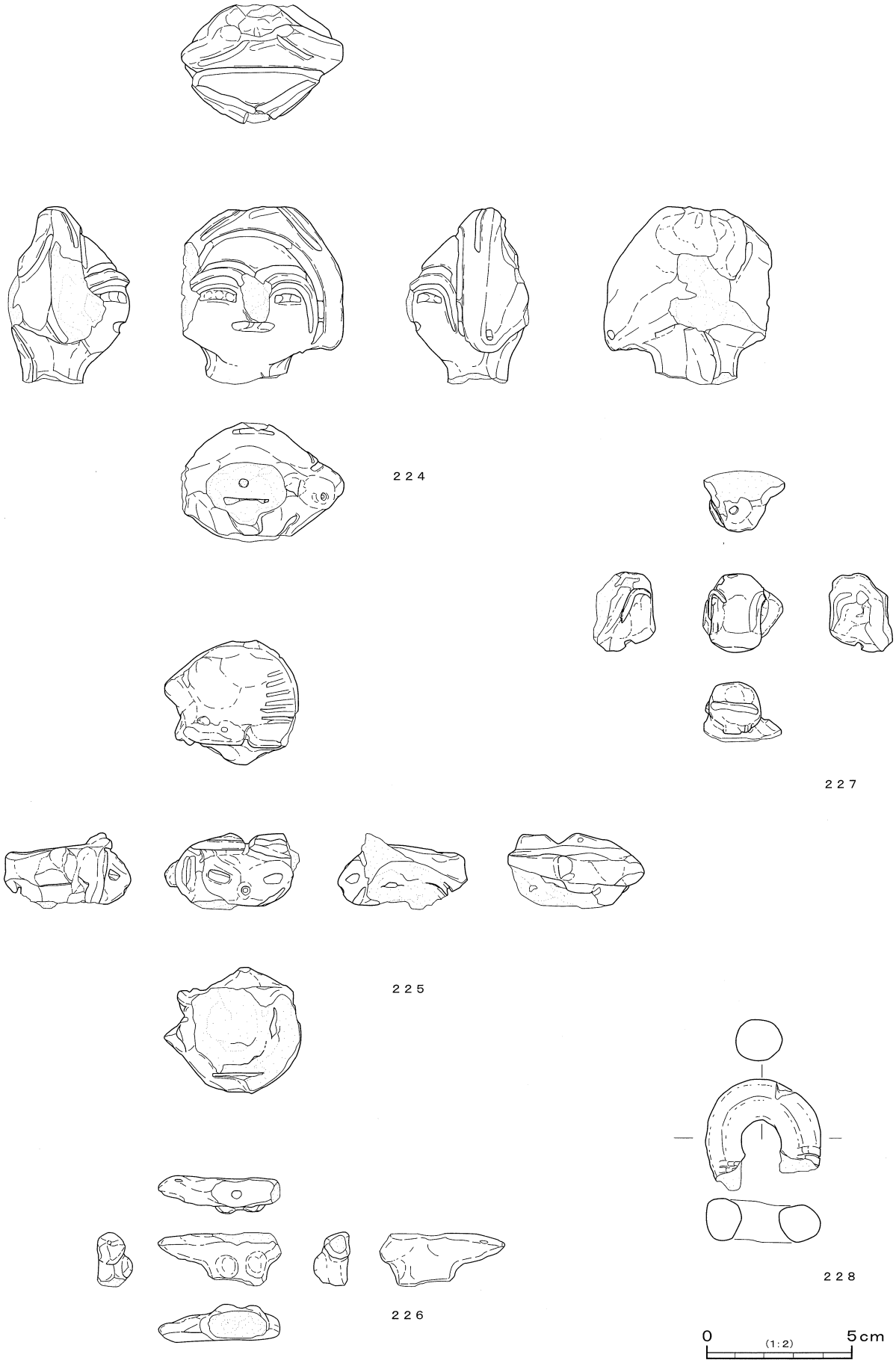
第20図　遺物（7）


183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
0
(1:3)
10cm

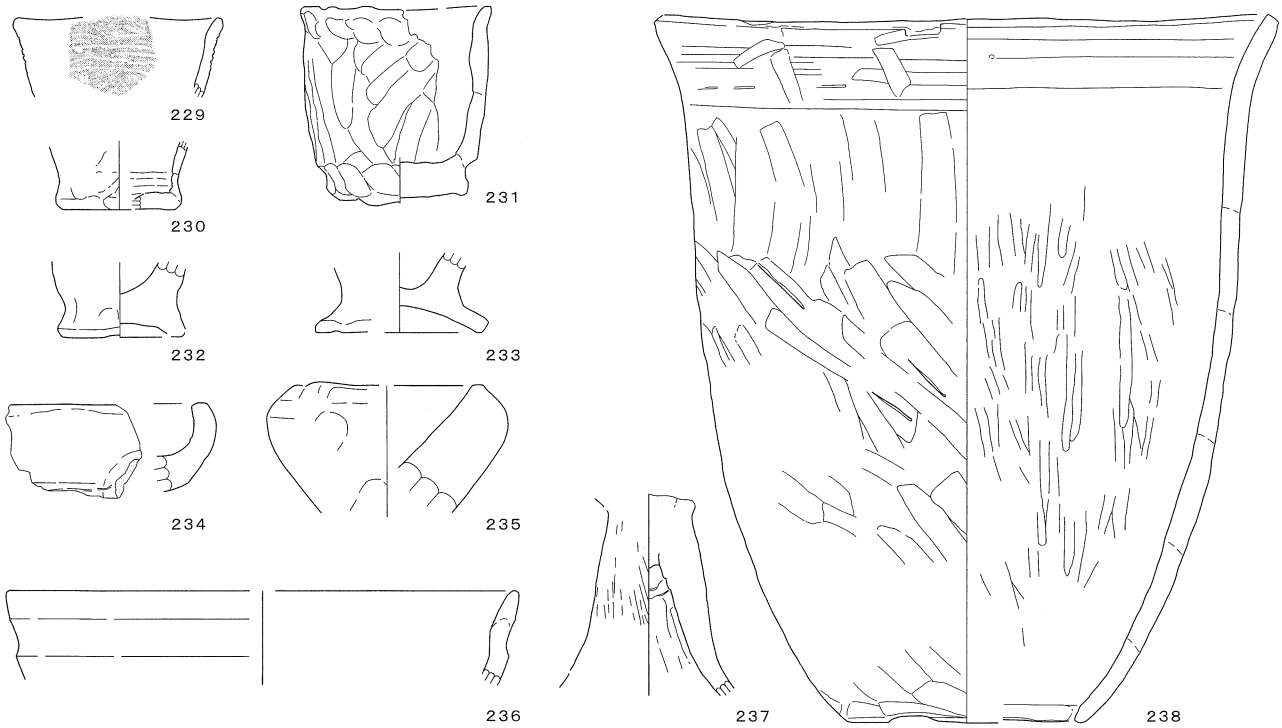
第21図　遺物（８）


212
214
222
223
213
215
216
212~214
0
(1:4)
10cm
217
218
219
220
221
0
(1:3)
10cm

第22図　遺物（9）



第23図　土製品（1）



第24図　土製品（２）、古墳時代遺物

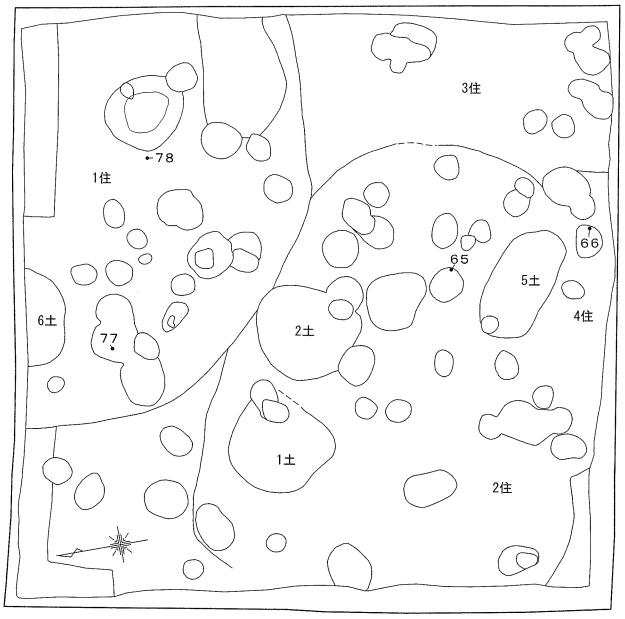
第５章　総括

第１節　遺物について

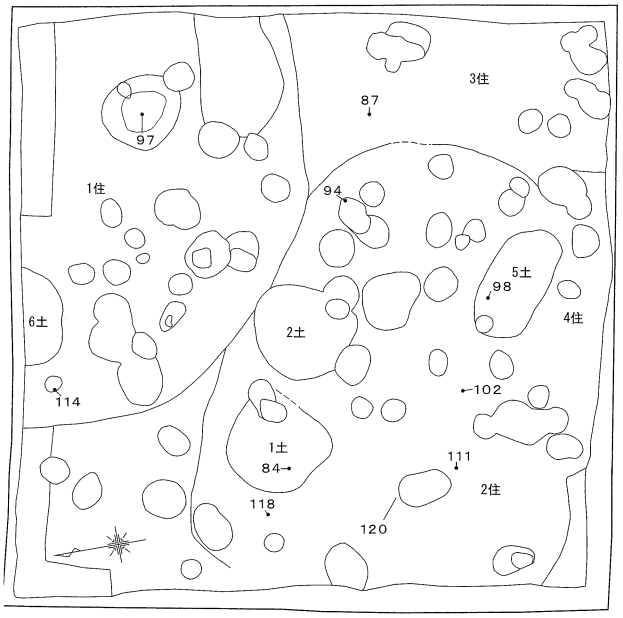
（１）土器類

ここでは第14～25図に掲載した遺物の位置づけと文様構成を述べておく。今回発見した土器資料の年代は、縄文時代前期後半の諸磯ｂ式期、諸磯ｃ式期、十三菩提式期、縄文時代中期の井戸尻式期、包含層出土の曽利式期、および古墳時代の所産として報告した。なお、限られた頁数のため、小片資料や位置づけが難しいものについては、類似する文様・調整でまとめた。竪穴住居跡に共伴する縄文時代前期後半に該当するものでは、1～64を諸磯ａ・ｂ式期、65～169を諸磯ｃ式期、170～182を十三菩提式期とした。調査区出土資料で最も古い段階としては、諸磯ａ式新段階の様相と捉えられる1・5があり、縄文地文に半截竹管による連続刺突がみられる。諸磯ｂ式古段階としては、半截竹管による円形刺突された2～4がある。諸磯ｂ式中段階としては6～23があり、主に縄文地文に沈線が施文され、21～23はボタン状貼付文がある。小片であるが、187・188の浅鉢も出土している。24～49は浮線文があるもので、諸磯ｂ式新段階に位置づけた。10～16にも浮線文が施されているが、連続刺突がみられるため一段階古い位置づけとした。45は小片で磨耗しており、結節浮線文の諸磯ｃ式、または十三菩提式の可能性もある。同じく小片で時期的な位置づけが難しかったもので、50～55の半截竹管による刺突・爪形文（押引文）、56～64の縄文が施されているものが出土している。諸磯ｃ式古段階としては65～83があり、沈線と半截竹管を押捺した貼付文がみられる。今回出土量が最も多かった諸磯ｃ新段階では、84～166を図化した。84～97はボタン状貼付文に半截竹管の押捺がなく、結節浮線文が施されている。98～120は波状口縁を呈すもので、渦巻状のモチーフを結節浮線文で表している。121～149については、浮線文がなく、沈線が施されているものである。121は波状口縁を呈す体部下半までの破片資料である。文様は3段構成されており、上段と沈線によって帯状区画した中段には渦巻状モチーフがあり、下段にはボタン状貼付文と沈線で別のモチーフが施されている。また口縁の端に沿った竹管刺突がみられる。小片で明確ではないが127～129は、削り取り技法のみられる十三菩提式期にあたる可能性も窺える。130～142は結節沈線文が施されるものである。137は上部に結節沈線文、下部に沈線の縦割線とＸ状のモチーフにボタン状貼付文を施しており、136・138もこれと類似する資料と思われる。なお、横位の沈線には直線状と連続する羽状のものがみられる他、貼付文があるものとないものがみられた。160～162は、器面を指頭ナデされたもので、162の底部には網代痕がみられた。163～166は棒状の貼付文があるもので、胎土が鈍い黄橙色であり、他の資料とは異質な感がある。諸磯ｃ式期では、浅鉢は190～196があり、192～195は有孔、196は円形の刺突がみられる。199・200は小片であるが、高台状の貼付がみられ、同時期の浅鉢として位置づけられるものとした。167～182は十三菩提式期と

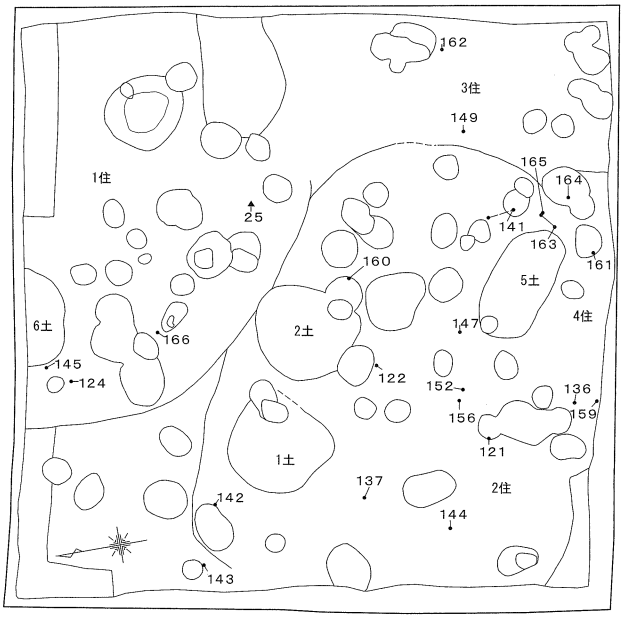
諸磯a・b式期



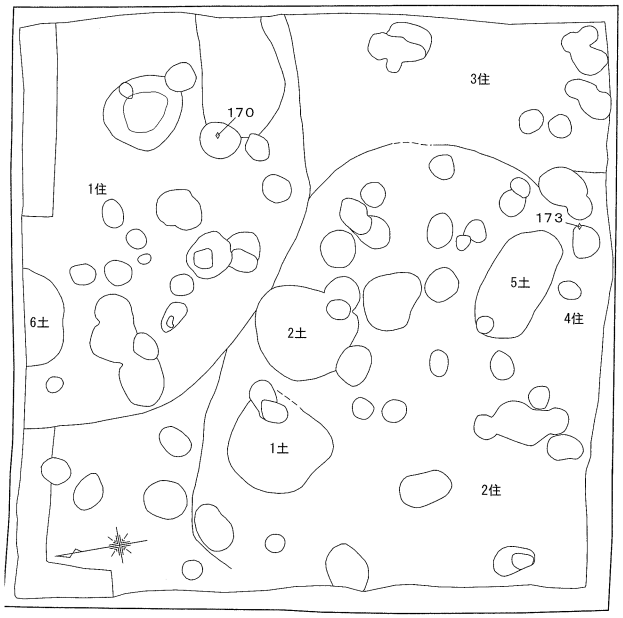
諸磯c式古段階



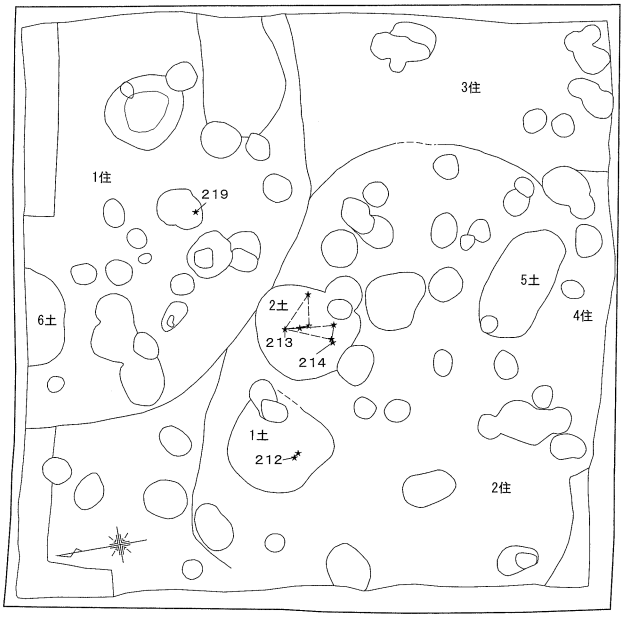
諸磯c式新段階（結節浮線文）



諸磯c式新段階（結節沈線文）



十三菩提式



縄文中期

第25図　時期・文様構成別 土器出土状況

したもので、いずれも小片である。167・175・176は口縁部に隆帯状の貼付文とキャタピラ文（細い竹管を連ねた押捺沈線文）がある。170～173および177・178には粘土の削り取り技法がみられ、前者は連条した押捺沈線文、後者は平行沈線が施されている。179・180は口唇部に貼付け文、口縁部の三角交互刺突状の粘土削り取り、押捺沈線文がみられる。181・182は三角交互刺突状の粘土削り取りが小さく、口縁部下に縄文が施文されている。197は直線的に立ち上がる口縁で、外側から2箇所穿孔している。198は坩で、既述の236～238と同じ古墳期の遺物であり、上層からの混入と考えている。202～211は土製円盤で、いずれも深鉢胴部を使用している。側面には擦痕があり、使用痕というより整形による痕跡と考えられる。212～221は縄文時代中期の資料である。既述の土坑出土遺物以外は曽利期の包含層出土の遺物で、215が曽利Ⅰ期、216～221が曽利Ⅱ期、曽利Ⅳ期に位置づけられる。また出土状況は不明であったが、縄文時代中期の土偶3点（224～226）、諸磯b式期の獣面把手（227）や、十三菩提式期と思われる結節沈線文がある把手などが出土した。229～238は、小型土器及び古墳時代の遺物である。229は沈線と口縁部に貼付文のような隆起がみられる。201・231～235は、指頭圧痕、指頭ナデなど、手づくね技法で制作されている。201や235などは古墳期の所産と推定できるが、年代ははっきりしない。その他、不明土製品1点と、内面に炭化物が付着した土器片が出土し、図化しなかったが写真とともに報告しておく。

（2）石器類

石器は、石鏃・石錐・スクレイパー・石匙・石皿・磨石・石斧が出土した。小型品の石材は8の石鏃がチャート、それ以外は黒曜石であった。車居遺跡2次調査で出土した石鏃同様、やや歪な形の石鏃（16・17・20・21）が出土している。剥片も多く検出されており、その中には5・14・19などの使用痕がある剥片や、石錐を制作する過程で出来た剥片に加工痕もしくは使用痕がみられる4などが出土している。7の石錐は他と異なったやや濁った暗緑色であり、蓼科冷山群所産の石材と推定される。石皿に使用した石材は、25は安山岩、26は玄武岩質安山岩、それ以外は玄武岩であった。なお、釈迦堂遺跡群から出土した資料と同様に、使用される玄武岩は遺跡周辺では産出されないことから、富士山に由来した産出地から搬入された可能性があり、今後石皿の生産・流通・消費などを検討する上で注目されるものと考える。

第2節　遺構の年代について

遺構の重複関係と第6・7・26図に示した出土遺物の分布から、年代ついて触れておく。ここでは出土遺物から、諸磯b式期で1段階、諸磯c式期は少なくとも古段階で1段階、新段階は浮線文と沈線の変化で2段階、十三菩提式期で1段階の5段階の時期を推定した。諸磯c式古段階、十三菩提式期は明確でなかったが、分布傾向から各竪穴住居跡の年代を位置づけてみた。まず、諸磯b式期は、出土量が少なく1・2号住の範囲に分布していたが、床面より高いレベル（第6・7図参照）に多くみられた。2号住は別遺構（4号住）との重複があり、床面のレベルからの出土が確認できることから、この段階の遺構と想定した。諸磯c式新段階は、点数は少ないが、1号住でピットと炉上面で浮線文が施された97が出土しており、同遺構をこの段階と想定した。2号住と4号住が重複する部分には、結節沈線文が施された遺物のまとまった分布がみられ、遺構範囲は明確ではないが4号住をこの段階とした。なお、4号住については造り替え・拡張からさらに時間差を設けなければならない可能性がある。3号住については、出土した162の年代をあてたいが、遺構範囲が明確ではなく別遺構の可能性も窺えるため、年代は断定し難い。その他、傾斜面で縄文時代中期には墓域、土器捨て場となった立地環境から、別地点からの流入を検討する必要がある。今後の課題として周辺の調査による資料・情報の増加を待ち、改めて検討の機会を得たい。

おわりに

今回の調査成果として、古墳時代～奈良・平安時代の集落跡と周知されていた地域において、縄文時代前期後半の集落遺構の存在を確認し、さらには縄文中期に墓域・土器捨て場となった土地様相の変遷を捉えることができた。調査範囲が狭小であったため、今後の資料増加によっては新たな見解となる可能性は十分考えられるが、本報告が今後の周辺調査の糧となり、地域の歴史の解明を進める契機となれば幸いである。

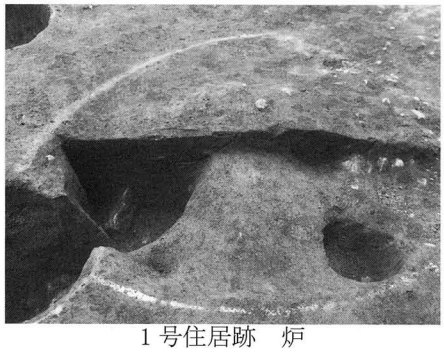
末筆となったが、調査・報告書作成においてはKDDI株式会社、㈱熊谷組、笛吹市教育委員会、その他多くの方々にご協力いただいた。心より感謝を申し上げ、結びとしたい。

参考文献

谷口康浩 1989「諸磯式土器様式」縄文土器大観1 草創期 早期 前期 小林達雄編 小学館
網谷克彦 1989「北白川下層式土器様相」縄文土器大観1 草創期 早期 前期 小林達雄編 小学館
長沢宏昌 1989「花鳥山遺跡 水呑場北遺跡」山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第45集 山梨県教育委員会
新津健・米田明訓 1994「天神遺跡」山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第97集 山梨県教育委員会
小野正文 1999「山梨県史」資料編2 原始・古代2 考古（遺構・遺物） 山梨県史編さん委員会
今村啓爾 2000「諸磯磯c式の正しい編年」土曜考古 第25号 土曜考古学研究会
今村啓爾 2001「十三菩提式前半の系統関係」土曜考古 第25号 土曜考古学研究会
関根慎二 2008「諸磯式土器」総覧縄文土器 小林達雄編 総覧縄文土器刊行委員会

1号住居跡　完掘状況

1号住居跡　遺物出土状況

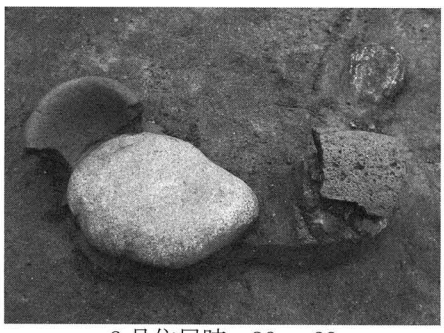

1号住居跡　炉

1号住居跡　66

1号住居跡　25

2号住居跡　完掘状況

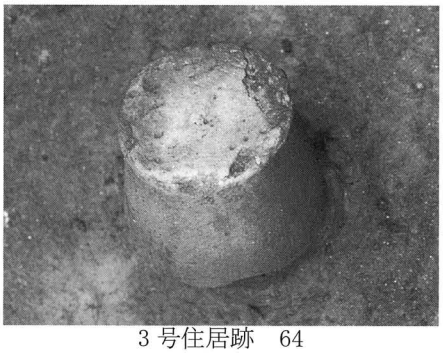
2号住居跡　完掘状況


2号住居跡　26・28

3号住居跡

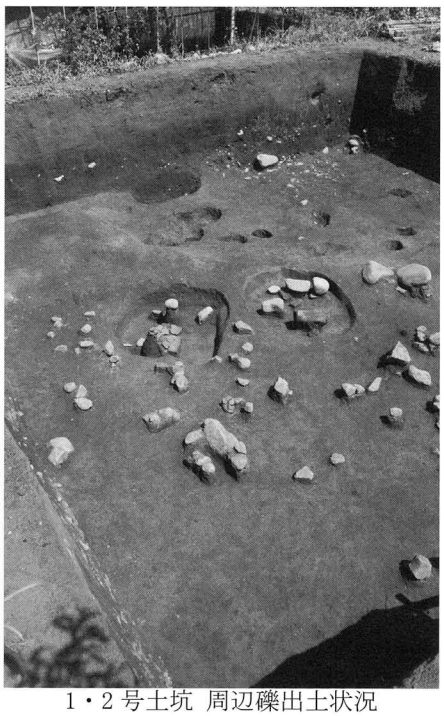
3号住居跡　出土状況

3号住居跡　162


3号住居跡　64

4号住居跡　161

2・4号住居跡

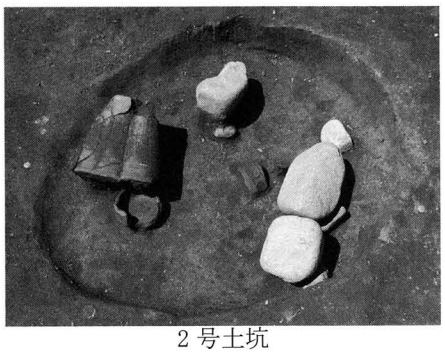

1・2号土坑　周辺礫出土状況

礫出土状況

2・4号住居跡

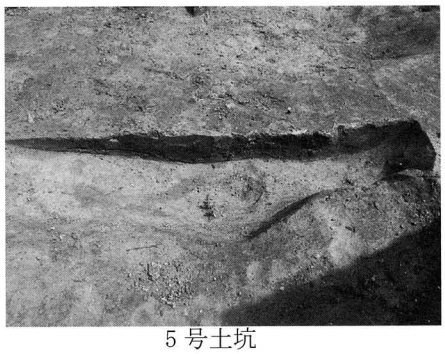
1・2号土坑

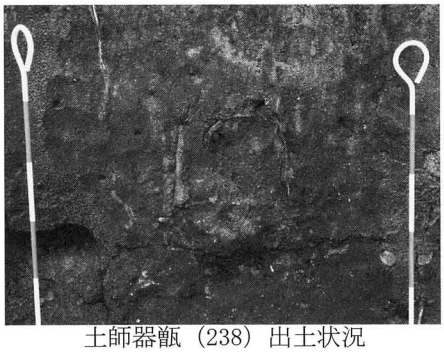
1号土坑


2号土坑

1号土坑　212 出土状況

2号土坑　213・214 出土状況


5号土坑


土師器甑（238）出土状況

調査前

調査風景

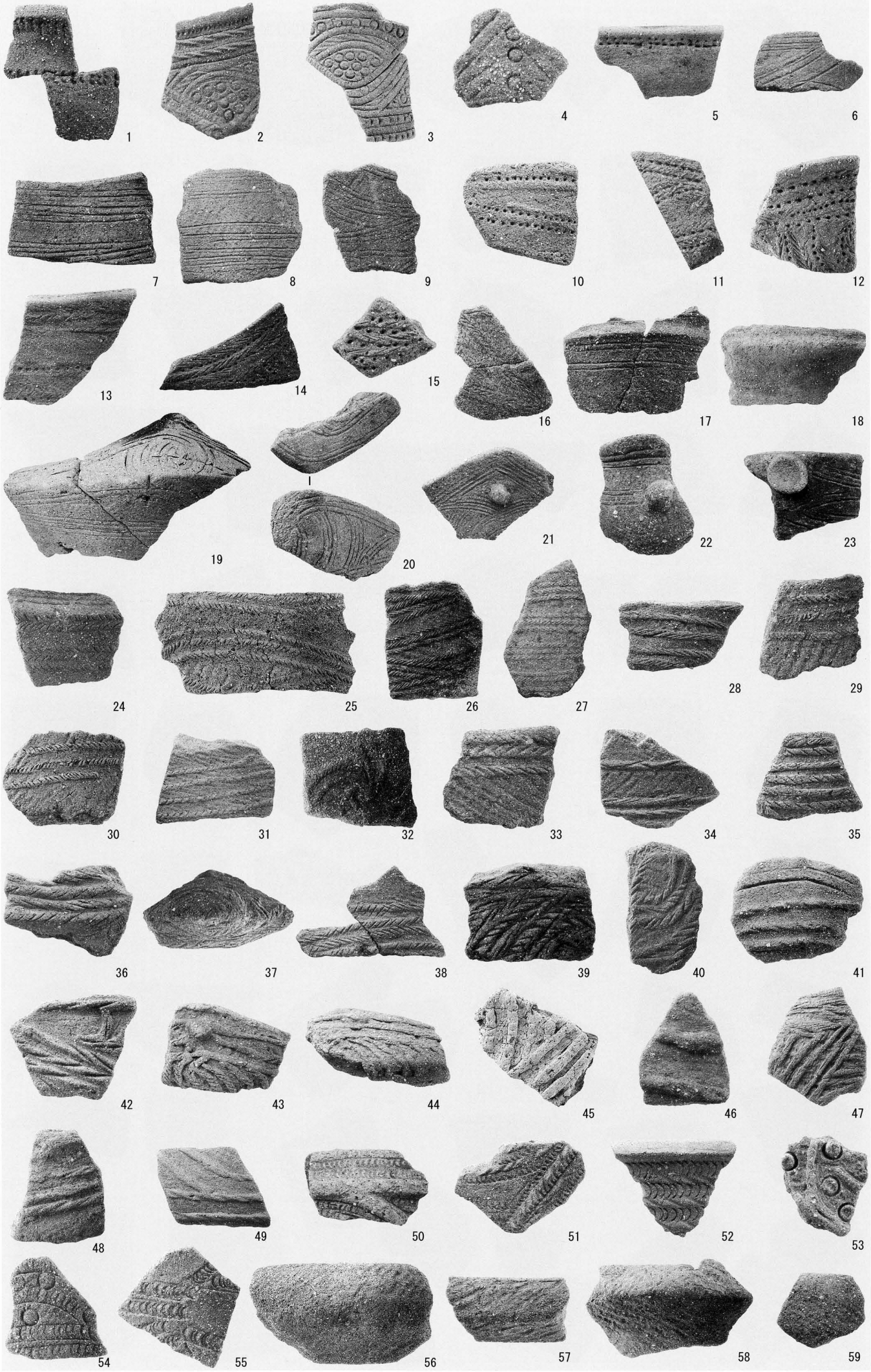
写真測量風景

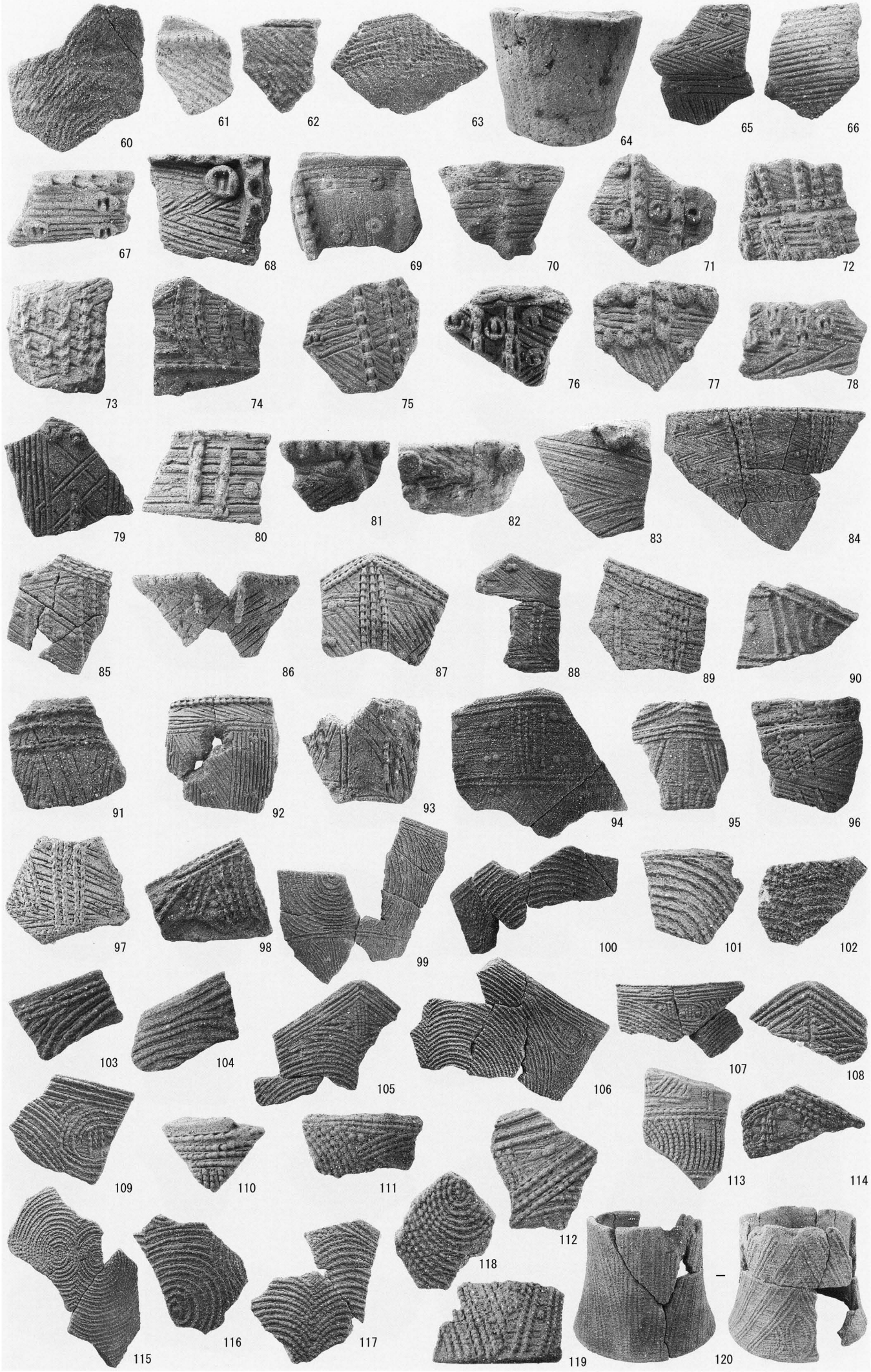
調査区近景

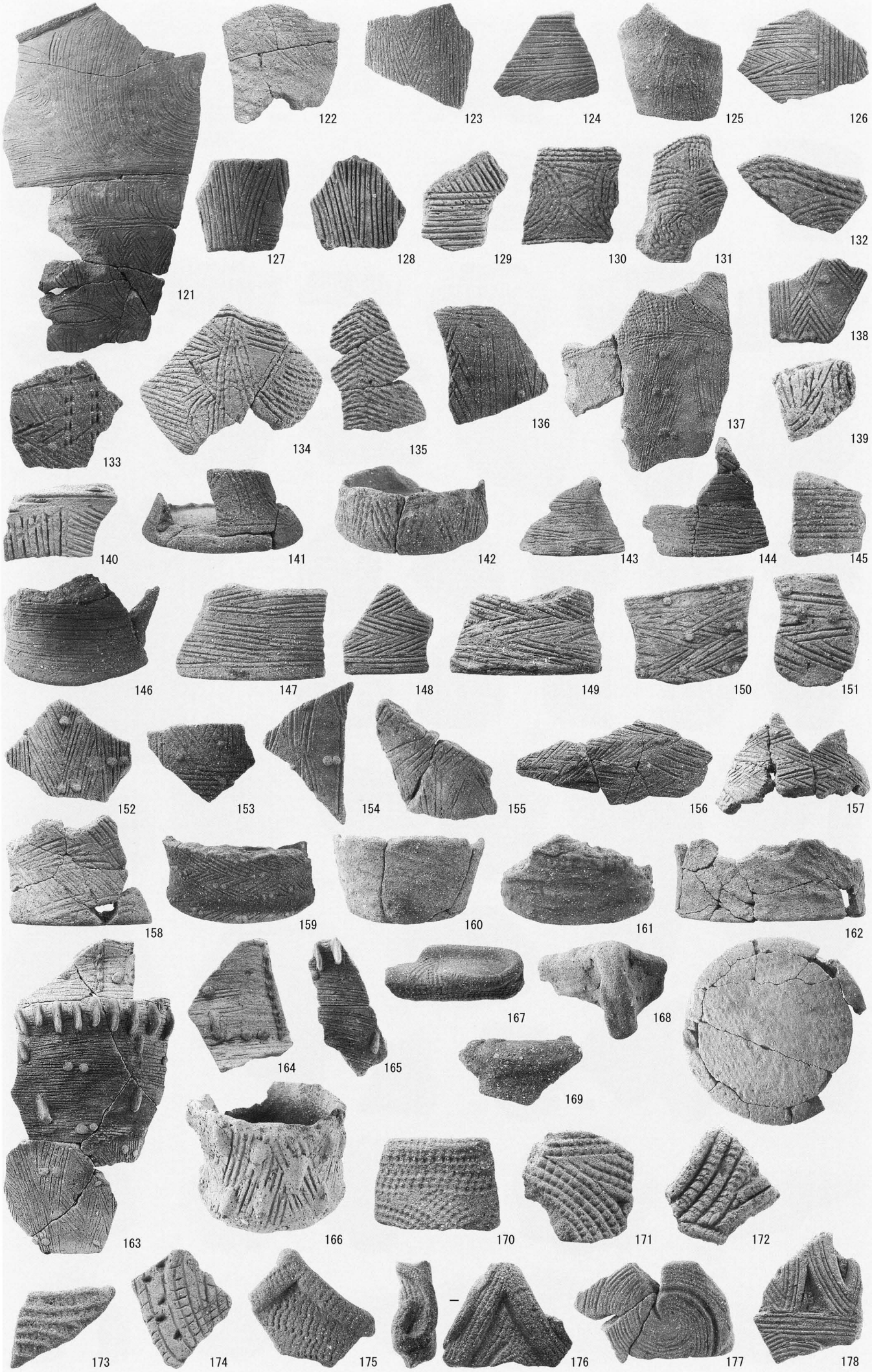
調査風景

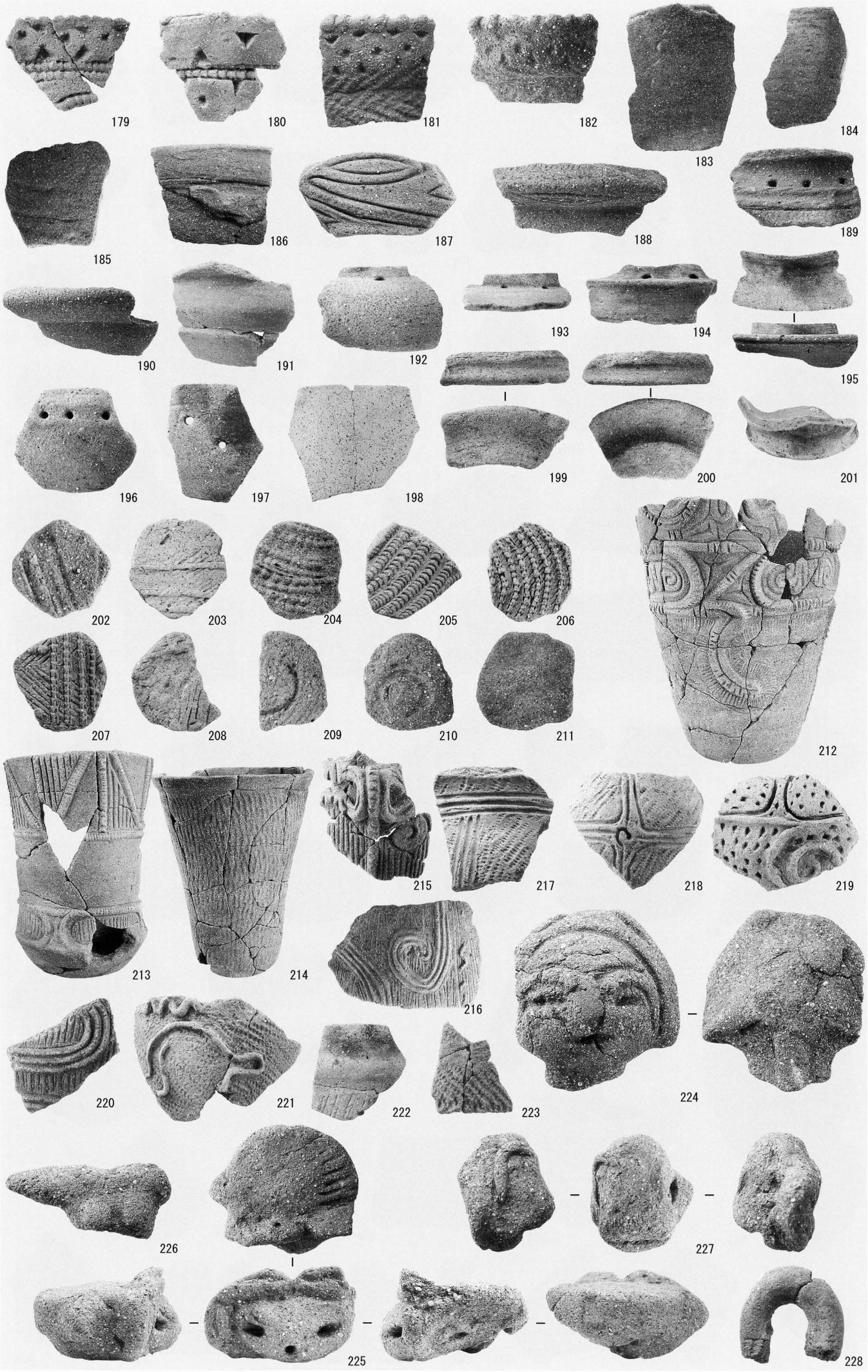
調査風景

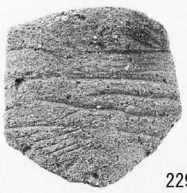
調査区全景


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59


60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120

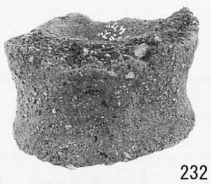

121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178


179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228


229

230

231


232

233

234

235

236

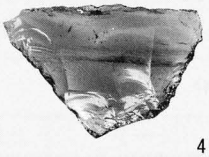
237

238

1

2

3


4

5

6

7

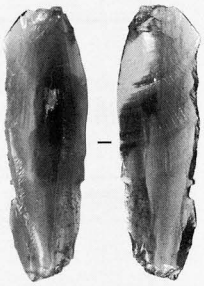
8

9

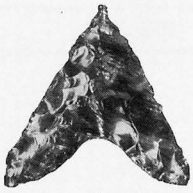
10

11

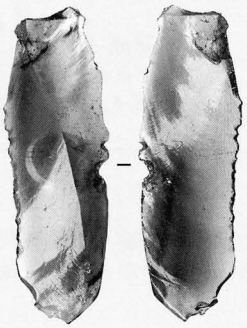
12


14

13


15

18


19

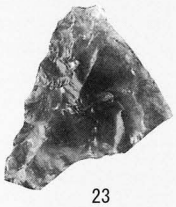
16

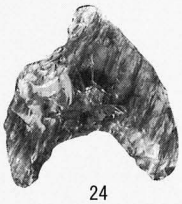
17

20

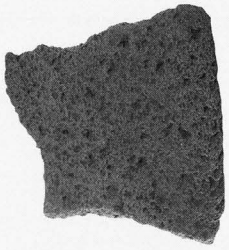
21

22

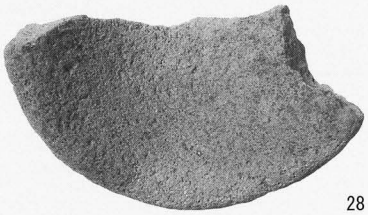

23

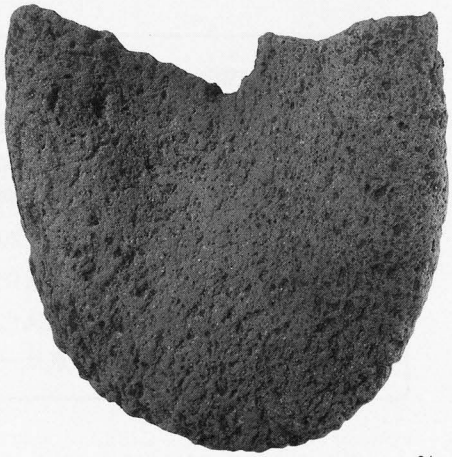

24

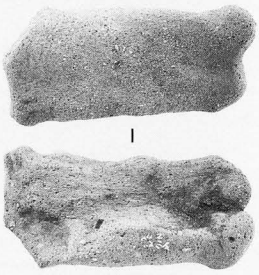
25


26

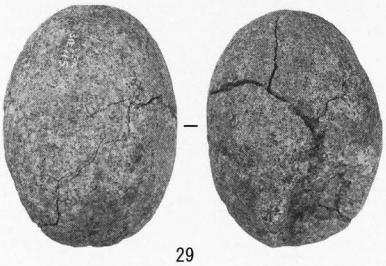
27


28


31


1

不明土製品


29 30

炭化物付着土器片

報　告　書　抄　録

ふりがな	しみずいせき
書名	清水遺跡
副書名	携帯電話アンテナ基地局建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	笛吹市文化財調査報告書
シリーズ番号	第10集
編著者名	望月 秀和
編集機関	財団法人　山梨文化財研究所
所在地	〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566　TEL 055-263-6441
発行年月日	2009年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
しみず いせき 清水 遺跡	ふえふきし いちのみやちょう もとみやこづか あざ しみず 笛吹市 一宮町 本都塚 字 清水186	19201	16	35° 38′ 59″	138° 41′ 26″	平成20年 8月18日 ～9月4日	64	携帯電話アンテナ 基地局建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
清水 遺跡	集落跡	縄文 古墳	住居跡4軒 ピット65基 土坑4基	縄文土器 土師器 土製品 石器など	

要約	縄文時代前期後半期の竪穴住居跡や縄文時代中期の土坑墓等を検出した。御手洗川流域においても同時期の遺構・遺物の存在が明らかとなり、集落変遷を検討していく上で貴重な資料が得られた。

笛吹市文化財調査報告書　第10集

清水遺跡

携帯電話アンテナ基地局建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

発行日　平成21年（2009）3月31日

編　集　（財）山梨文化財研究所

発　行　（財）山梨文化財研究所

印　刷　（株）帝京サービス

Fuefuki City Archaeological Report Vol.10

The Report of Archaeological Research of SHIMIZU Site

An Archaeological Rescue Survey prior to the Construction of Mobile Phone Transmission Site

March,2009

Fuefuki City Board of Education

YAMANASHI RESEARCH INSTITUTE OF CULTUAL PROPERTIES